大嘗會儀式具釋 下

853
195

函號 一架 一六五

書名 大嘗會儀式具釋

冊數 二

東廿二

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

853-195

渡邊千秋藏書

和學講談所

吉野弘隆藏書

大嘗會儀式具釈巻七

辰日悠紀節會次第

悠紀ノ國ノ郡ト定ノ所ニ注ス節會ト

節日會ハ會集假令元日正月七日同十六日以下其

當レ日ヲ以群臣朝廷ニ會集スルヲ節會ト云ス大ニ

衣服令ニ節日ト云レニ同シ其會集等ノ日ハ群臣

ニ饌ヲ賜フ儀ヲ中古以来ハ群臣ニ饌ヲ

賜フ事ヲ節會ト云事ニ成来リテ任大臣節會ト

ト云名目出来レルハ字面ニ違エリ今此悠紀主

基等ノ節會ハ其辰日ト云ヲ以會集スル故ニ之

ヲ節會ト称スルモ亦実ニ違ハス然レトモ其実ニ據テ節會ト名ツケタルニハ非スシテ大嘗ノ属享ケル昨日晏リタルハ今明両日皇寿新穀ヲ以テ饌ヲ陳フカ故ニ節會トハ名ツケタルト見エタリ昔ノ書ニハ唯辰日悠紀伎主基伎トノミニリ其悠紀ハ悠紀国ノ貢スル物ヲ以行ハルヘキモ其分ナリ今度十一月九日戊辰天晴

主水司供解斎御水御粥

主水司ハ水ヲ掌リ饘粥ノ掌ル官ナルカ故ニ之ヲ供ス解斎御水御粥

供ス今度ハ佑藤井友益橋本之ヲ供ス解斎トハ神妻

ノ御斎戒ヲ解クヲマフナリ辰日以下モ散斎ノ中ナレトモ致斎ハ卯日ヨリヲナレハ今朝解斎ヲ供ス但真観ノ式ヲ見ルニ伎ノ如キハ午日ニ至リテ解斎ヲ供スト中古以後ト同シカラス又江次第ニ見エタルハ今朝先清暑堂ニ御セヲ供ス今朝清暑堂ニ御セヲ進リテ次ニ御手水御粥ヲ供ス今ハ御手水御粥ヲ供スルヤ知ラス御セヲヘシ伎ナレハ御手水御粥何カニヲ供スルヤ知ラス其御粥ハ堅粥和布羹ヲ副供ス陰陽ハ蔵人頭今度ハ皇照朝臣庭田頭中将之ヲ勤ム今年長ハ五位蔵人今度ハ勅使道勧修寺右中弁之ヲ勤ム役送ハ六位蔵人今度ハ丈江後包

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

北中
榻前之ヲ勤ム其外出納
右近将監小舎人紀正室
山科式
ア大巫其ノ支ニ奉仕ス
中臣鎮祭壇大掌宮
中臣ハ神祇大副藤波三位
和忠卿之ヲ勤ム仰日ヲ以テ其時刻ハ
真観儀式ニ仰ニ刻トアリ今度辰ノ正刻十リ鎮祭畢
リテ修理職ノ役人大掌宮ヲ壇ノ普ハ悠紀主基西国ノ
人夫之ヲ壇ヲ
西国司装束宴舎儀
西国司トハ悠紀主基ノ国司ヲ十リ今度悠紀近江ノ国司
ハ権守掌相中将
起卿
仗座者仗案
房
紀庵
右ヲ門権佐権大掾右官

営守紀氏信岐三人主基卅波ノ国司ハ権守兼侍朝臣
庭田
右衛門
権掾右官掌紀氏房
庭橘
左大弁宰相仗座実連朝臣
亜親町
右中将
権
門大尉三人ナリ宴舎トハ今日ヨリ群臣ニ饌ヲ久マヲカ被ニ
宴舎ト云但正ヒク宴舎トハ今日ニヒテ辰巳両日
ハ猶次掌ノ役ナレハ古ク宴舎トイヘル装束ハ壮装
飾ト云ニ同ヒクヨヲホヒカサルヲ云方ノ文スナハチ其装束
ノ様ナリ但今明日ノ儀昔ハ豊楽院ニテ行ハレ是天皇
宴舎ノ所ナレハナリ今ハ豊楽院ノ図ニ依テ紫宸殿
ニテ行ハル故殿内殿庭ノ装束以下君臣ノ座共ニ
大ニ昔ト同ヒカラス

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

其後当御帳押仗群卿座立基盤小忘座在其上頭
帳ハトハリト訓ス帳ヲ以囲ヲテ其中ニ御座ヲ供ス其帳
昔ハ悠紀帳主基帳トテ今明両日共ニ
先悠紀帳ニ御ス後ニ主基帳ニ御セラル今ハ帳ハ一
ツニシテ其廻ニ悠紀ノ御屏風ヲ立廻セハ悠紀帳トモ
主基ノ御屏風ヲ立廻ラセハ主基帳トヨフノミ其悠紀
主基ノ御屏風ノ変ハ諱ニ附録ニ注ス群卿ハ諸衛ト云
云ニ同シ今日ノ悠紀節會ニ出仕セル公卿
納言 大枝御門 三条天 納言 御倉
押小路 経秀卿 右大将 九条 植基卿 権中納言
実岑々 右衛門督 中山中納言 宗親卿 万里小路中納言 植房卿 東

園中納言 基顕 卿 左衛門督 飛鳥井宰相中将 雅吉卿 宰相中将 六条 右 起卿
定後朝臣 野宮左宰相中将 宗長朝臣 松木左 等 宰相中将 其座ハ
殿ニテ勝ニ劣ル座ナリ故ニ基盤ヲ立ス基盤ノ裏ハ
忘次御飯ノ所ニ注ス小忘座在其上頭トハ郡卿ノ
中ニテ小忘公卿ハ下ノ端ニテ其座ヲ上座ニ設ケル
例ナリ今度ハ権大納言ノ座ヲ東園中納言宗長朝臣ノ
人小忘タルニ依テ先上頭ニ此主人ノ座ヲ設ケ其
次ニ自余ノ公卿ノ座ヲ設ケルナリ
中務省右仗南一許丈置尋常版
中務省吉日出仕セル八少将陣芳朝臣 高津 越守 凌守 右

杖ノ変ハ誹ニ国郡ト定ル仗ノ産ノ所ニ任ス版ノ変ハ
仰日ノ条ニ注ス尋常版ト云ヒ常ニ之ヲ撥セサル故ニ
尋常版ト云ヒシ江次第元日宴会ノ条ニ見エタレトモ
即江次第ニモ尋常版ヲ置ト云ル文所ニアリ然レハ
常ニ撥セサルトキハ非スシテ此版ノ外当日ハカリニ置ク
版アル故ニ対シテ尋常版トカ今日ノ如キモ外ニ
寿詞版ナトアル故ニ版ト云ト見エタリ
式ノ右尋常版南去一詩文置寿詞版其西立櫛山志在前
式ノ昔当日出仕セルハ少亜経重宗国丟
ノト、訓ス神祇令ニ孔穎祐之日中臣奏天神之寿
詞或解ニ謂以神代之古変為萬寿之宝詞也トアル
是ニテ神名伎神名変ノ詔命ヲ以此豊葦原瑞穂
国ヲ天孫大瓊々杵高ニ任シタマヒシ事ヲ天降シタマヒシ変
等神代ノ古変ヲ述テ皇統ノ無窮宝算長久等
ヲ祝セル詞ナル其中臣寿詞ノ久傳ハレル者ヤナシ唯
古記別記巻第一ニ康治元年ノ寿詞アリシヘシ
寿詞版ハ下ニ立タル中臣ノ陰イテ寿詞ヲ奏スル所
ノ版ナリ標ハ杭ナリ是ハ朝廷ニシテ何ニテモ或行
ハレ群臣庭上ニ列立スル時庶人ノ
心ニ任セテ列立スレハ其所其次等宜シカラサル故ニ

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

其以前ニ此ニ集官ノ立ヘキ所ヨリ
云ヒ北ニ抗ヲ立ル変ニテ意ハ大抵版ト同シ但今ニハ版
位ヨリテ標見エス儀制令ノ文ヲ案スルニ其此ハ一両人
人ハカリ坐スル所ノヿヒヿニモ群臣ノ列立スルヒヒニモ共
ニ版位ヲ置クルカ真観儀式以下ニモ皆如キハ坐スヘ
キ所ノヒヒニハ標ヲ立ルトヒヒニハ云ヒ因テ又此ニ云ル標ハ今
ヒヒモ又然リ但版ヒテハ八寸下ニヒヒクル群卿参標下群卿参列等ノ時ノ多
ニクテル標十リ小忘在前トハ上ニ云ル殿上ノ座次ト
同ヒク参列ノ時モ小忘ヨリ北ニ上ニヨリ仍テ異位重

行ノ標ナレハ小忘ノ標ハ一行ニ前ニ立ルナリ

群卿着仗座

群卿此時着ヒクルハ関白三条大納言右大将権中
納言右衛門督万里小路中納言右衛門督宣
後朝臣八人ナリ仗座ハ国郡ノ定ノ所ニ注ス群
卿ノ中関白ハ端座ニ着セラル端座ノ定ヒ国郡ト
定ノ所ニ注スル八ノ第ニ大方ハ其始ル前ニ群卿
仗座ニ着ノ大嘗ノ大嘗ノ辰巳午日ニハ
仗座ニ着ノ儀アレトモ昔ノ大嘗ノ辰巳午日ニハ
今日ハ三ケ日共ニ黒衣ニテ行ハルヽニハ仗座ハ儀アル

内弁令官人数噪実名外記問諸司具否
内弁、節會日ノ役ノ名後成忌寺関白江次弁抄ニ
第一大臣於豪明門内弁備諸司更故曰内弁トアリ
但昔紫宸殿ニ非ズシテ行ハルヽ節會ニモ皆内弁
ト云ヒ必シモ豪明門ト限ルニアラズ唯門内ト云
ヘシ今度今日ノ儀ハ関白勤メラルヽ内弁ハ関白
官人ハ陣官人ナリ今度出仕セルハ右近將監源元
陳嶋右近將曹紀長曹 鈴木伊賀守
トシテ出仕スル外紀今日出仕セルハ大外記師守 押小路
権弁

推少外記中原于後 山口藏助 内両人ナリ此時内弁ノ名ニ依
テ噪実ニ若シハ師守ナリ問諸司具否ハ今夜ノ儀ニ
奉仕スル諸司悉具レリヤ否ヲ問ルヽナリ此時外記候
スル由ヲ答申スル次第ニ出サルヽハ文ノ畏ナリ又江次弁ノ内弁
細記ノ中ニ大嘗會ノ内弁揩改大臣奉仕セラルヽ時ハ
宿所ニ於テ之ヲ問ルヽ更ノ申ニヨリ今夜陣座ニテ
問ルヽハ一条家ノ一流カ

次群卿起座

内弁以下皆陣ノ座ヲ起ツ陣ノ座ノ儀既ニ
近衛陣階下

近衛府ハ御在所ニ近キ所ヲ警固スル宮故ニ弓箭
ヲ帯シテ階下ニ陣ス左近ハ左ニ列シ右近ハ右ニ列ス黄
昏常ノ如クニ階下ニ陣列シテ警固ニ備ヘ何ニテモ儀式
行ハルヽ時ハ大将中将少将将監将曹府生番長近
衛ニテ皆陣列ス其陣列ノ次第装束ノ定等辞ニ具
載儀式並嘉式等ニニ委シク中古以後ハ尋常ニハ
陣ヲ儀式ヲ以時ヲ御即位ノ外ハ次将ハカリ陣列
又今日ノ次将ハ家司朝臣中院中将 右次将ハ左
衛門督朝臣大原中将 公文朝臣持明院中将 通枝朝臣中院中将
朝臣園池中将 実観朝臣 ㊟木中将 出仕ス六人皆缺腋ニ靴

ヲ着各水ニテ作レル弓ヲ持進ミ来ル左将ノ弓ニハ赤地錦ノ懸
右将ノ弓ニハ青地錦ノ懸ヲ用ヒ各其懸ニ金ニテ巴ノ紋
ヲ入リ懸ノ末ハ皆四ニ割タリ次将等北弓ノ末ヲ右ニホヲ
方ニシテ持来リ進ミテ胡床ニ着胡床ハヲカミノ左陣ニミツ
右陣ニミツ設ケ置クリ陣ニ至リテ各弓ヲ其人ノ右ノ方ニ立
テ置

出御惣記帳

惣記帳ノ表ハ上ノ御帳ノ所ニ注ス出御ニテ帳中ノ
御座ニ着タマヒテヨリ今日ノ御装束ハ黄櫨染御袍小
葵御下襲経飼緑ニテ名ル御靴ヲ着御衣

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

紋ニ小科前中納言（卿従二位）御前ニ衣欠ニ小桜蒙使（従四位下）
中納言（侍従）
後索ク 参仕ス清涼殿ヲ経テ紫宸殿ノ軒ノ下ヨリ入レ
メタマフ其儀常ノ節会ノ時ノ如シ共道先ツ延ヲ敷共
上ニ織物ノ茵道ヲ敷東地ニ黄ナル花菱ノ文アリ先
内侍一人宝剣ヲ捧ケテ茵道ノ上ヲ行是ヲ剣内侍ト云
次将一人茵道ノ左ニ在テ之ヲ扶持ス次ニ陪燭殿上人
通積朝臣（東久世右少将）惟喬朝臣（竹内弾正大弼）俊幸朝臣（提督侍従）基
各（右少将）宗城（難波侍従）宣茂（伏原右衛権佐）大江俊包（北小路侍従）等茵
道ノ左右ニ相分レ中央ノ方ニ向カテ相対シ各燭ヲ乗テ
横ニ歩ム次ニ天皇茵道ノ上ヲ御歩ニテ御
裾ヲ持テ同ク茵道ノ上ヲ歩ム次ニ蔵人頭重照朝
臣（庭田右中将）規長朝臣（甘露寺右中弁）
流（葉室権右中弁）清（烏丸右少弁）等五人茵道ノ左ニ在テ従ヒ奉ル
其中ニ題道ハ御笏ヲ筥ノ蓋ニ載テ従ヒ奉ル此筥ハ黒
漆ニ描金帯地縁ニ以懸ヲリ次ニ内侍一人神璽ヲ捧ケテ
茵道ノ上ヲ行是ヲ璽内侍ト云次将一人茵道ノ左ニ在
テ之ヲ扶持ス次ニ命婦二人茵道ノ上ヲ行各六位
蔵人一人ツヽ茵道ノ左ニ在テ之ヲ扶持ス御座ニ御
セラレテ内侍剣璽ヲ東ノ机ニ置ナリ

近仗称敬言

近仗ハ近衛ノ陣ナリ警ハ警蹕ニ同シ但西土ニテ出
警入蹕ト云ハ警ト蹕ト卿カ差アリトモ云ヒ又ハ出
入警蹕ト云ヘキヲ久ヲ互ニセル物ニシテ警蹕ニ字ニテ
一変ナリトモ云此両説ノ可否ハイマタ知ラサレトモ皇華ニテ
ハ警ト蹕トノ差ナリラヽトヨハレ変トミエタリ然レトモ
差アリト云説ヲ執スル人ハ出御ノ時ノヲハ警入御ノ
時ノヲハ蹕ト云方モテ既ニ此所ノ次丹ノ如キ出御ニ警
入御ニ蹕ト書タルハアレトモ其ヨハレル所ニ於テハ差ナ
ケレハ警トハカリ云レモ警蹕ト云ニ
同シ猶警蹕ノ様同郡ト定ノ称唯ノ所ニ注ス今出

御セラルヽニ依テ階下ノ近衛ノ陣ニアル次将人々慎レメヨトノ
成ニ警ヲ称スルナリ昨日ハ敬ヲ
日ヨリハ節會ノ儀ニ依テ常ノ節會日ヽタ警ヲ称ス其
警ヲ称スル時ハ起テ称レ晏レハ胡床ニ居ル
定マレル儀ナリ

群卿着外弁 以下忌
居先

外弁ノ字或ハ其本ハ内弁ニ対セル名ニテ後成忠寺
関白江次第抄ニ第二大臣於門外弁備諸事故曰外
弁トアルハ是ナリ但是ハ節ニモ不ス外弁上卿ト云ハ如此
ナレハヘシ外弁備スヘキ所ニ着ヲ云ナリ

公莫根源ニ詣ル外弁ニ着長楽門ノ東ノ帳ヨリ是ヲ入
内ニテノ変ヨリ今ノ世ニハ使宣ノ所ニ幄ノ屋ヲ構ヘテ
着ナリトミヘタリ但節會ニ関ヲ行ハルヽ被同ニカクサレハ
大内ニテモ所ヲ定メテ云ヘカラス門外便宜ノ所ニ着ト云
コト然ルヘシ今モ便宜ノ処ニ慢幄ヲ立班慢ヲ三方ニ立廻ラシテ
幄ノ屋トシ其中ニ一行ニ公々ノ元子床子ヲ立中納言
以上ハ元子宰相ハ床子ナリ此時東弁ニ着ニハ権大納言
大納言 藤原朝臣 松木宗長 宰相中将 些二人
経季々々 東園中納言 基賢々々 三条大
納言 実利卿 右大将 九条植 基卿 権中納言 押小路 実岑々々 右衛門督

中山中納言 宰執卿 万里小路中納言 植房々々 右衛門督 葉室 長嗣 宰相
中将 六条右 起卿 定後朝臣 野宮左宰 相中将 時 等九人着ル其ノ志公
卿ハ外弁ニ着ニトテ先浅履ヲ脱テ着大志公卿ハ履
浅履故ノ如シ是今日ハ奏詞奏ノ時大志公卿庭上ニ列
スル儀アルカ故ニ猶イマタ靴ヲ着サルナリ今日ヨリ外ハ
奏詞奏ナキカ故ニ外弁ニ着時詔卿皆靴ヲ着テ之ニ
着

改官 同着床子

改官トハ大改官トモ云ヘキナリ然レハ大臣以下ヲ惣テ云ヘキ
如ナレトモ公卿ヲハ除イテ或ハ弁少納言以下ヲ称ス或ハ外

記史以下ヲ称ル廣ク直ノ心名目ヲ以其多キ中ノ最末ノ者
ノ目トスルヿ名目ノ通列ナリ
モ三位ニ叙スルヲモ五位ニ叙スルヿ
下ニ叙スル而已ヲ叙爵ト称ヘ又命婦ト称ヘ女ノ五位以上ナル
中臈女房以上ヲハ惣テイフ変ナルヲ中世以後中臈ノミ
ヲ命婦ト称スル頼政奉ス可ラス仍テ政官ト云モ中古ニ
ミエタルハ史方外記史以下ヲ称シ同ニハ弁少納言マテヲ
蔀ヲ云ルモアリ今モ改官ト云ハ先ハ外記史以下ナレトモ
此時床子ニ着ハ弁少納言以下ナリ其床子ハ上ニ見エタル
群卿ノ元子ノ横ヲ三行ニ立最前ニアルハ弁少納言ノ
床子ナリ今日ハ範昌朝臣長谷少納言頼要蔀室権右中弁之ニ着其
後ニアルハ外記史ノ床子ナリ今日ハ権ノ外記中原ヲ後
山口内蔵助方少史亮親山名主計頭之ニ着其後ニナルハ史生以下
ノ床子ナリ今日ハ右史生紀春佶行受官和泉守史生宗岡奎
行春木右衛門大尉史生宗岡佐兵衛尉大志
座田右衛門少尉右官掌代右官掌紀親縁大内
名便宗岡行周三宅中務大丞之ニ着
外弁上卿令召便下式筥
外弁上卿ト外弁ト卿弁一ノ人ヲ云今日ハ左大弁内大

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

臣ナリ召使ナリ但西人ノ中
イツレ右ニ志シテ進ミタルヤ知ス式曽ト小節會ノ式ヲ
納タル曽ナリ若式ノ次第ヲ忘レタルトキ見ンカ爲ニ昔ハ
式ヲ曽ニ納案ニ載テ外弁ノ公卿第一ノ人ノ元子
上頭ニ置タリ今モ其所ニ簀蓆ヲ敷テ大高サ四卿ノ
案ヲ立其上ニ曽ヲ置其形外ノ如キニシテ先手ナリ
又蓋ナシ中ニ式ヲ納タリトハミエスイストハ止座ノ側ニテ
ルヲ卿下座ノ側ニ引下スヲイフ案ヨリ下スニハ非ス
此夜ハ其日ノ外弁上卿尤大臣ナレハ第一ノ元子ニ着
ヘ式曽至リテ近ク二アリ仍テ下スナリ今モ式曽近キニ非
元子ヲアケテ第二ノ元子ニ着ヘ式曽ヲ近キニモ非又遠キニモ非又仍テ下スト競ト下サヽル說ト兩說アリ
大納言ナレハ必下スト例ナリ今日ノ外弁ノ上卿ハ内大臣
ナリ然レトモ今ノ左大臣関白ヲ帶セラレタレハ右大
臣一条道香公一上タリ然レハ今日ノ内大臣ハ第二ノ元子ニ
着ヘキ人ナレハ下スニ及ハヽ可ヲ其ヲサルカ旦今日ノ外弁
ノ標最上人元子ハ權大納言其次ノ元子ハ東園中
納言其次ハ庶子ニテ家長朝臣其次ノ元子ハ右大
弁ノ元子ニテ第一ノ元子ニ着ヘ是モ式曽
近クニアリ仍テ下スニ及ハス大内大臣ナレハ第一ノ元子ニ着ヘ式曽近キニモ非
元子ヲアケテ第二ノ元子ニ着ヘ式曽ト近キニモ非
又又遠キニモ非又仍テ下スト競ト下サヽル說ト兩說アリ
大納言ナレハ必下スト例ナリ今日ノ外弁ノ上卿ハ内大臣
ナリ然レトモ今ノ左大臣関白ヲ帶セラレタレハ右大
臣一条道香公一上タリ然レハ今日ノ内大臣ハ第二ノ元子ニ
着ヘキ人ナレハ下スニ及ハヽ可ヲ其ヲサルカ旦今日ノ外弁
ノ標最上人元子ハ權大納言其次ノ元子ハ東園中
納言其次ハ庶子ニテ家長朝臣其次ノ元子ハ右大

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

臣ノ料ニテ空元子ナルヘケレト今宗長朝臣ノ次ニ内大臣着ル而ニテ式筥ノ筥ハ宗長朝臣ト内大臣トノ間ニアリ然レハ弥下スニ及フヲヲハ今日モ猶下サレメケル是内大臣ナレハ下スト云ヲ証セラルヽニヤ召使即式筥ヲ筥トモニ引下テ内大臣ノ元子ニ近クス

其外記問諸司具否

外弁上卿召使ヲ以外記ヲ召ヲ之ヲ問上ニ云ル内弁ノ問ルヽニ日ニナ外記侍宇 押小路 帰郭頭 召ニ應ニテ出来リ跪イテ候フ申ヲ申ス上卿看大納言以下ナレハ立ナカラ警折ニテ各ヘ申ス例ナリ

内弁於軒廊ハ国郡ト定メ所ニ注ス昔ヨリ此間ノ変ヲ行変又ハ微細行変ナト、記セトモ此間ニサセル内弁ノ所見エス只陣座又後ニテ外記ヲ召ヲ筥紙ヲ押ヒメ又同所ニテ浅履ヲ脱テ靴ヲ着ノヽ但一上ノ内弁ハ筥紙ハ置ス第ニテ押テ参ル今度此時ノ内弁ハ関白ナレハ勿論置ケニテ押テ参ラルヽヘシ然レハ靴ヲ着ロトハカリナリ

次開門

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

昔ハ此時豊樂俄鳶兩門ヲ開ク今ノ俄ハ紫宸殿ニテ行ハル、故常ノ節會ノ如キ泰明門ヲ開ク但今ハ泰明門ナシ惣テノ節會ノ時南門ヲ以泰明門代トシ兵衛門ノ陣モ南門ヲ開キタリ

群卿參標下異位重行 小忌不列 訪杖立

群卿ノ中小忌公卿二人ヲ陪キテ内大臣以下ノ九人出来リテ庭上ノ標ノ下ニ參異位重行ハ卯日ノ所ニ在

スストテ内大臣前ニヤリ其後ニ三条大納言右大將兩人其後ニ右衛門督萬里小路中納言兩人其後ニ芝後朝臣其後權中納言ハ右大將ノ次ニ少シ退イテ立左

衛門督宰相中將兩人ハ萬里小路中納言ノ次ニ少退イテ立諸伏立トハ昔ハ近衛御門兵衛内舍人等各陣アリ故ニ諸伏ト云今ハ衛府即位ノ時ヨリ外ハ近衛陣ハアリナレトモ猶諸伏ト称ス其陣ニ着ク人立ツ儀俄ニシテ居ル、ハ穩便ナリ故ニ威儀ヲ出ス衛ノ同或ハ部卿ノ庭上ニ進ム同ナト時々立テ其外ノトキハ胡床ニ居ル此所モ今部卿標下ニ進ミ此次ニ奏ス内弁ノ奏ナトアル故ニ此同聲立ナリ自外ノ起居スル丁之ニ唯シテ知ヘシ

次神祇官中臣捧覧オ就版位跪奏祝詞群臣共跪奏

就中臣退

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

中臣ハ神祇大副藤波三位和忠卿出仕ス賢木ハ龍眼木ナリ笏ニ副テ之ヲ捧ク版位ハ上ニ見エタル寿詞版ノ所ニ注ス群臣ハスナハチ右ノ群卿ナリ昔庭上ニ参入スルハ公卿ハカリニハ非ス六位ニテ階ニ参入ス故ニ群臣ト云リ近臣ハ此時ニ限ラス元五位以上ノ代ニモ六位等マテノ代ニモ群臣ノ代ニ公卿ハカリ出仕スル事ニナリ仍テ群卿トモ郡臣トモ称スルナリ其中臣ノ寿詞ヲ奏シ訖リテ中臣ハ直ニ退出ス又昔ハ中臣寿詞ヲ奏スル時忌ノ神璽ノ鏡剣ノ奉ルヲ而シテ此両度共ニ令ニ云々ルハ御即位ノ日ナリ真観儀式ヨリ已下大嘗ノ辰日ニアリ其忌部ノ鏡剣ヲ奉ルヨリ以後ハ見エス是忌部ノ絶タルノミナラス大鏡剣ノ重ニセラルヽ変漸ヲ盛ナルカ故ニ寿詞奏ノミアルヘシ

次弁参両国所献多来

多来忌部物ハ三ケ重ヲ一両国ヨリノ献物ヲハ又ハ物ト名ツクトモ云リ但真観儀式ニ此時奏スル詞ヲ挙テ云ク悠紀ヲ供奉ル国某国官姓名等加進ル白雉物合若干荷就中献物黒木御酒若干並白木御酒若干並多来忌部物色目今度毎吹又ハ

来忌部物雑果子若干ヲ奥ニ敷若干堰酒若干並ニ物若干

並王基尓供奉當基国官姓名加進礼面雑物合若干
荷就中献物ニハ多米部物ニハ進礼皆手申賜波久止
奏スト申リ其詞ノ上ニ奏両国所献多米部物色目ト
ハヲレトモ詞ノ中ニ献物ト多米部物トヲ別而数フレハ
必献物トニト全同シキニハ非ス又案スルニ黒酒白酒ハ献物
トニ中ニ入酒ハ多米部物トニ中ニ入又献物ノ中ニモ多
米部物ノ中ニモ各並物ナリ又延喜大嘗式ニ多明来三
十舛多明酒舛トヲルモ白酒黒酒ニ合テ日トニヲリ是等ヲ
以思フニ供神供御等ノ料トシテ献ル物ヲハ献物トニ称
賜ノ料トシテ献ル物ヲハ多米部物トニ称ス若シ然ラハ
フ或ナルヘシ而シテ此トキ色目ヲ奏スル二ハ献物多米部物共ニ
奏スヘシ一人版ニ就テ読イテヲ之ヲ奏スル但今ハ之ヲ奏スル儀
ナシ其実ナキコトナレハ若カルヘシ
群卿拍手就退詔伏居
此拍手モ亦入閤テヨリ卯日ノ所ニ注スカ如シ群卿拍手シ就
リ居ナカラ一拝シ上臈ヨリ次第ニ起座退出シ侍臣ノ
ヲ靴ヲ着外弁ノ座ニ復ル詔伏居ハ詔伏立ノ所ニ注
スカ如
式部撤寿詞版
寿詞ノ役畢リテクルカ故ニ経筐進テ其版ヲ抱イテ

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

退出ス其儀常版ノ楯撤セス

内弁着東廂代元子

是以下ハ大方常ノ節會ノ儀ニ同シ東廂ハ紫宸ノ東西ニ廂アリ今ハ西廂ノミアリテ東廂ナシ此元子本儀東廂ニ立ヘキヲ東廂ナキカ故ニ西廂陣座ヨリ南ノ廂ノ東過北ヨリ弁ニノ柱ノ外ニ立之ヲ東廂代元子トイフ元子ハ腰ヲ懸物ナリ四角ニシテ砌長シアリ其元子ヲ上ニ縁ツキノ小サキ薄縁ヲ敷内弁其所ニ来リ之着テ内侍ノ陰槻ヲ持ナリ又此内弁ハ閑門ノ前ニ硯ニ靴ヲ着ルヿ上ニ注スカ如シ今日ノ主基節會以下今日ノ儀ニハ内弁廂ノ元子ニ着シトスルヿ時浅履ヲ脱テ靴ヲ着ルヿトシ之ヲ脱ナリ

内侍陰槻

槻ハオハシニテ訓ス橫槻ナル陰ハ目ヲ下シテ見ルヿヲ是ヲ内侍ノ人ニ傳フルナリ内侍表着唐衣立衣張袴裳ヲ着柏ノ扇ヲ顔ニ當テ殿ヲ黄子ノ西南ノ隅槻ヲ持テ遶ニ出来リ暫有テ退入

次内弁謝座昇殿着元子

謝座着コトヲ称謝スルヿナリ内弁座ヲ起テ儀

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

音ニ称唯シ進テ陣頭ニ至リテ殿ニ向ヒテ謝座ス其酬
座ノ様先一揖シ次ニ再拝シ訖一揖ス其前後ノ揖ハ起居
ノ節ニシテ再拝ハ皇帝ヲ拝スル意ナリ謝座ノ畢リテ
又進テ正面ノ階ヨリ昇殿上ノ所子ヲ起子来リテ御下
政官着御下座
御下ハスナハチ階下ヨリ政官外弁ノ座ニ着但昔ノ次第ニハ大嘗辰巳其外ノ諸節會ニモ
此儀見エス
次官内方孝大膳職造酒司ノ別多賀須岐此良須岐物等
於庭中即持去 今度毎此儀

大膳職造酒司ハ並ニ官内者ノ被官ナリ故ニ省之ヲ案
ニ多賀須岐ハスナハチ葉椀此良須岐ハスナハチ葉手ナリ
供神ノ調度ニ唱答ルノミ物ト、共ニ入ルル物ニテスナハチ
飲食ナリ故ニ大膳造酒之ヲ庭上ニ列ス其列スルハ只
供スルヲ見ス儀式ノミ故ニ並ニ即持去但真寺今度等
此儀ナシ右略セラルヽナリ
次内弁召舎人大舎人称唯
舎人ハ分番シテ警衛スル者ニシテ又誰使ヲ勤ム故ニ
少納言ヲ召シメシカ為ニ舎人ヲ召ルル舎人ニ内舎人大舎
人中宮春宮舎人近衛舎人ナト、テアリ惣テ舎人ト云

今此ニ内弁ノ名ヲ出ス、ハ大舎人ナリ故ニ大舎人称唯ス其名ヲ出ス、ハ内弁ノ人筋ヲ近クアテ、息ヲ敷サスシテト子リト二声名ヲ諸節會ノ通例ナリ大舎人今日出仕セル、大允藤井頭中柱ナリ今ハ大舎人ノ官人ハカリ有テ大舎人ナキ故官人ノ中ニテ大舎人ノ役ヲ勤ム仰日ノ所ニ注スカ如シ已日午日ノ大舎人モ之ニ同シ称唯ノ変ハ国郡ト定ノ所ニ注ス

次少納言答版

藏昌朝臣外弁ヨリ奏入シテ尋常ノ版ニ着其内弁ノ大舎人ヲ召ハ少納言ヲ召ニ人ニカ為ル故大舎人ハ称唯ス、ハカリニシテ殿下ニ参ラス直ニ少納言答版ト記ス是大舎人ハ少納言答版ト記ス又代着版ト記ス是大舎人ヲ召シニ少納言大舎人ニ代リテ参ル故ナリ版着版ノ間郡卿先外弁ノ座ヲ起テ鳥行ス是亦尋テ群卿ノ名ル、知シ、ハナリ

内弁宣ヲカ称少納言称唯仕出名之

宣ハ勅詔ヲ宣ル故ナリ世俗モ称名セトノ勅ヲ内弁者ヲカ称名セト唱フ故ニ宣トイフ是ヨリ下ニ内弁宣トアル者皆是ニ准シテ知ヘシ称トハ諸ノ長上ノ官ヲ云百官上典以上ハ皆長上ノ官ナリ故ニ李部王

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

記ニハ百唐主典以上称カ称也ト注スヌ今ノ文ナラハ長上官ト書スヘキ所ヲ長解ニ多久主典以上ト記スハヒ主典以上トセテハ却テ孔ニ者カリ論ノ長上ノ官トニハ如ス少納言ハ小変ノ勅ヲ宣傳スル変ヲ掌ル故ニ内弁之ヲ召テ之ヲ宣フ而シテ少納言門外ニ出テ辞卿ヲ喚上ニ云ル如ク近世ハ公卿ハカリ出仕スレトモ苦ハ辞臣出仕スルカ故ニ之ヲ召ヲカ称ヲ召トハイフ又云変根源ニ小節ニハセチキニ多久主典以上ノ者ヲ申又之五位以上ノ者ヲメセト仰スル心ナリ又節ニカ称トハ六位ヲメス六位ノ輩セテヲメセトイフ心也トアレトモカ称トハ六位ヲ云トイヘルハ誤ナリ六位以下トイハハ、衛近カルヘシトカ古ニカ称トハ五位以上ニモ亜レル名目ナル変古書ヲ考フルトキハ明ナリ又其名又詞ノ変モ公変根源ノ如キハ中古以後ノミヲテ云ル説ナリ昔ハ元日踏歌等ノ小節ニハ侍従メセト云ヒ白馬大嘗新嘗等ノ節ニハ大夫等ノセト云ヒ詞ハ皆勅ノマヽナリ勅ハ六位以下ニ及ホス変ナレ故ニ大節ニテモ勅ニテ召トコロハ五位以上ノミナレハ昔ハ大夫等メ

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

セト云又其後ニ至リテハカ稱メセト云其カ稱ノ名目ハ六位以下ニ並レトモ軾ニテ召トコロハ五位以上ノカ稱ナリ其五位以上ヲ召ヘキニハ六位以下モ准ニテ參入スルノミ其小節ニハ六位以下ハ宴ニ預カラサルカ故ニ五位以上ヲ召時准ニテ入ヘキ筭ナキノミ召レサルトノ差別ニハ非ス

群卿參列（異位童行以小忘爲元）

諸仗立

外弁云ヒ内大臣以下小忘モ大忘モ皆兼明門代ヲリ參入レテ標下列立ス小忘ノ人三人ハ一行ニ前ニアリ自余ノ九人ハ其後ニ異位童行ス仏妻立仏標ノ如ク其門ヲ入北ホヒニ近御ノ陣胡床ヲ起ツ上ニアル諸仗立ニ同ク

内弁宣數ヲ

是亦内弁軾ヲ奉テ之ヲ宣フ數ヲトハ後成恩寺関白ノ云妻根源ニミエキイニハ數居ナリ堂上ニ數仏座ニイヨトテ心ナレヘシ又同人ノ江次第抄ニ協可昇着堂上所數座也引声名之時日數ヲトモ云タリ此儀カクニ可ニシテイマタ書サレ仏リ數ヲハシキ井ニトリ負觀俊式ナトニハ必侍座ト記スト江次第ニハ侍座トモ之支井尓トモ數ヲトモ記スト數居トハリ

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

就ヲ麦ナシ案スルニ座ノ一字ヲ刻シテシキ井ト爲ヘシ敷
居ル物ナレハナリ侍座ノ二字ハシキ井ニ侍シト訓スヘシ節
會ノ日著客ニ侍座ヲ勧ムルヲ時座ホ侍止宣ノ麦俄
式ニモ工夕リ惣シテ侍座ノ二字ニテモ同制ナルヘシ昔ノ
内弁ノ宣ルニハシキ井ニ侍レト宣シヲ中古以後畧シテ
シキ井ニトハカリ云トモ工夕リ惣テハ江次第ニハ侍ノ字ヲ
除テ就スヘキ麦ナレトモ古キ式ニ行座ノ字アルニ従テ改メ
サルカ又ハ侍座ノ二字ニテシキ井ニト訓スルト心ヘメルカ
ナルヘシ其シキ井ニトト云ヲシキ井ニ
付クルイキシテニモ井リイノ声ノ言ハ吾便ニテハスル例

ナリ假令ヘハ往シヲイニシトト云ニ槐ヲエニスト云類モトヨ
リ枚挙スヘカラス後成恩寺ノ數尹ノ井ヲ居ヨトノ
心井シトハ声ヲ引時イフトシ云シハ並ニ誤テリ此宣ハ
群卿殿上ノ座ニ着ヨトノ麦ニテ座ヲシキ井ト云ナレハ
シキ井ニ侍ト宣フルヲ畧シテシキ井ニ座ヲシキ井ト云ヒ又ハ
シテシキ井ニト唱ルトモ工夕リ
群々謝座謝酒就昇殿着座指伏后
謝座ハ上ニモ工クル内弁ノ謝座ニ同シ謝酒ハ飲酒ヲ辞謝
スル俄ナリ内弁數后ホヲ仰スルヲ聞テ群卿先謝座ノ
辞ヲナシ畢レハ造酒正鍬来リ空盃ヲ盤ニ載クルヲ小忘

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

第一ノ人ニ授ク今度モ造酒正師守押小路大外記権大納言ニ授ク第一ノ人造酒正共ニ相跪キ第一ノ人笏ヲ右ノ方ニ置テ左右ノ手ニテ盃ヲ取盤ヲハトラス造酒正盤ヲ取テ退ク第一ノ人跪キテカテ少シ残シ起テ再拝ス時ニ第二以下ノ群卿同シク再拝ス最リテ第一ノ人更ニ一人跪ヲ造酒正又来リテ跪ク第一ノ人盃ヲ返ス造酒正之ヲ取テ退ク第一ノ人笏ヲ把テ跪キナカラ又少シ残シ更ニ再拝シテ立ツ是ヲ謝酒トス其間第二ノ人以下ハ久ク立テアルナリ常ノ節會ノ時モ群卿昇殿セントスル時ハ必此儀アリテ其様モ古今同ク共

謝座謝酒訖リテ第一ノ人ヨリ次第二昇殿ス皆西廂ヨリ上ル惣テ西廂ヨリ上ル西廂ノ南第一ノ柱ヨリ南陣座ノ前ノ所ヨリ廂ヘ入テ上ル下ル時モ之ニ准ス群卿昇殿ニテ御帳ノ押ノ座ニ着其昇殿ノ儀最ハ近衛ノ陣又胡床ニ居ル受上ニモ之ル如シ

次撤御臺盤帳

信陽来女御陽ヲ供センカ為ニ御臺盤ニ懸ル帳ヲ撤シ去テ享盤ニ着其ハ酒部モ撤スルカ

内陽供御陽

内陽ハ奉陽葬清涼鳴私ニ忌ヲ着テ之ヲ勤ム盤ヲ捧

ケテ正面ノ階ヲ一階上リテ止マル采女傳取テ之ヲ供ス
御膳ハ常ノ御食ノ如ク酢醤酒醤飯羹餅餌
餉荏心各一盤ヲ、合セテ八盤ヲ一盤ヨリ皆蓋琴子アリ
其供スル間ハ辞臣諸仕皆起ツ
供ス
次供残御膳
残ノ御膳モ常ノ御食ノ如ク飯羹和膾雑菜
ヨリ先右ニ出タル八盤ヲ供スト雖之ヲ晴ノ御膳ト云次ニ
此四種ヲ供スト雖ノ残ノ御膳ト云晴ノ御膳供ニ畢ル
ハ辞御諸仕皆居ル此残ノ御膳ヲ供スルヲ以テ起ス

次陪臣下物簀 以下忘為先以下倣之 居訖内弁候天気
物簀ハ和名抄ニ物簀以来為之今案ニ物簀即物
簀也トアリ但今用ユル所ハ知ラス臣下ノ膳ハ大膳職供ス
今度大膳職ハ伊豆守小鄣久定徳
中先小忠ノ人ヨリシテ之ヲ居ユ又左次ノ如シ候天
気トハ龍顔ヲ見奉ルヨリ臣下ノ膳居ユル事ヲ
ニ御箸ヲ鳴シ又ヲ内弁気色ヲ以テ奉ルヲ
リ柳真観俊式ナトニハ御膳給膳ノ色目ヲ載セ
又江次第ニ見ヘタルカ如キハ常ノ節會ニモ大嘗ノ辰
巳午ノ日新嘗ノ豊明ニモ此処ニテ臣下ニ賜フハ皆餉

飯ニシテ粉熟ニ非スイツヨリ如此クナルヤ知ラス

御箸鳴臣下慥之

御箸ヲ鳴シツヽヲ是食上ヲルヽ、今ナリ臣下之ニ応シテ

御箸ヲ鳴スハ是亦食スル方ナリ

次供蛇炙

此時素飯ヲ撤ス

次供御飯

此時餲飯ヲ撤ス

次供進物所御菜

進物所ハ所ノ名昔月華門ノ外ノ南掖ニアリテ

所ヨリ進献ノ物ヲ納メ公御近御次将ヲ以別当トシ内膳

奉膳ヲ以預トシ為而シテ御菜ヲハ此所ト御厨子所ト

ヨリ供スル今ハ其所ナシト雖進物所御菜ト称シテ之

ヲ供スル干城堆坏汁物等ナリ

次供御厨子所御菜

御厨子所モ亦所ノ名昔ハ後涼殿ノ西庇ニアリ即

俗ニイフ御臺所ナリ別当預厨ア(ヲ)リ朝餉及朝

夕ノ御膳ノ御菜此所ヨリ供スル今ハ後涼殿ヲ

ト雖御厨子所ト称スル預一人小預一

人アリ今度ハ預宗直(高橋宗直女正)来

小忌ニテ之ヲ勤ム御菜

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

八高盛焼物汁物等ヲ
次陽巳下飯汁
飯ハ大炊寮給ス但今ノ様ハ知ラス汁ハ大膳職給ス
若ハ少志ノ人ノ饌ハ内豎司ヨリ給ス大忌ノ人ノ饌ハ
カリヲ所司ヨリ給フ飯汁トノミアレトモ菜モ亦陽
ヲ其飯菜汁等ヲ陽ヲ受或ハ進物所御菜ヲ供
シタル次ト御厨子所御菜ヲ供シタル次ト二陽ノ
式アリ又飯ハ御飯ヲ供シ名次ニ陽ノ式モ右ヲ次
第一様ナラス真菜養今度ニ此次第ノ如シ其后
ニハ先ツ忌ノ合リニテ之ヲ居ル受物盤ニ回ス

居就内奏候天気
御酒鳴巳下應之
並ニ上ノ物盤ノ所ニ注ス二回ス
次供白黒御酒各四杯
今ノ白酒ハ常ノ清ル酒ナリ黒酒ハ常ノ濁ル酒ナリ
常ノ如ク入ル酒ナリ其供スル二先白酒四杯ヲ四
度ニ供シ次ニ黒酒四杯ヲ四度ニ供ス合セテ八度ナリ
柳大嘗新嘗等ニ白酒黒酒ヲ用ユル事ハ至リテ古キ例
ナルヘシ万葉集天平勝宝四年ノ新嘗ノ歌ニ出其
以前イツノ時ヨリ用井ケン知ヘカラス而シテ其黒酒

二常山ノ庁ヲ入ル、亥ニ古キ亥トモ云テ真観儀式ニモ
大嘗ノ前ニ焼庁トテ山ニ入テ庁ヲ焼者ヤリ延儀式ニハ
明ニ久佐木庁ニ作ヲ入ル、ト云文アリ其常山ヲ用ヒ
蓋西土ノ馨香気ヲ以神霊ニ通セシメ
ントノ義ナルヘシ其故ニヤ卯日ニハ神食ノ上ニ注キ々ニヲ
是亦馨香ニ類スル但永享二年十月ノ康富記ニ醴
斎也白者自其色也黒者上酘振鳥麻粉ト見エタ
リ真白酒ハ米ヨリ醴酒ヲ用ユヘキ亥ナリ永享ノ次
ノ大嘗ハ真享ナリ真享ヨリモ下ノ清ル酒ヲ用
井ケル亥イマダ其心セス又黒酒ニ鳥麻粉ヲ振右
ニ云ル如ク上世ノ例ニハ非ザル毎アリ旦真気悪ムヘケレハ酒ニ入テ供ズル亥然ルヘキニ
非ス故ニ申世鳥麻ニ替タルニヤサモアルヘキトナリ真享
ヨリモ下ル又上世ノ如ク常山ヲ用井ラル其時ニ誠アリシ
ヤ知ラス
賜巵下
白酒黒酒各一杯ヲ受ケ先ス志ノ合リシテ嚥フ
次一献
悠紀献舞哥
今日ハ悠紀第一ノ吉日ナレハ悠紀方ヨリ之ヲ献ル真

舞味ハ雉ヲ梅枝ニ附ケ久ルト寮植ト橘栗トヲ髭籠
ニ入ヲ松枝ニ附ケ久ルトナリ其献ノ様ハ先ノ久ニ
エタリ又真観俊式ニハ此舞味ノ献ノ俊ノ前ニ奏
官西国ノ名来都物ヲ諸司ニ班給ノ俊ヲリ中
古以後ハ其俊見エス
行幸事
行幸奏ハ悠紀ノ国司此時庭中ニ立久ル国司ハ
采女朝臣 池尻右衛門権大掾 紀氏信 岩崎右衛門権佐 権大掾
頼要 叙小忌ヲ着ケ前行ス次ニ采女朝臣 私小忌
ヲ着帯釵ニテ梅ノ枝ニ雉ニ乃ヲ附久ルヲ来ヲ左ニ本ヲ右
ニシテ持テ進ム次ニ氏信如形小忌ヲ着テ松ノ枝ニ髭
籠ヲ附久ルヲ是モ来ヲ左ニ本ヲ右ニシテ持テ進ム
次ニ陪部二人相従フ共ニ庭中ニ立久ルヤ内弁何
物ソト問ニ久ル人各称唯ニテ悠紀ノ御膳ト
対ヘテ各物ノ名ヲ称ス内弁内陽ニ授ケ
称唯ニテ出テ内陽ニ授ケ内陽アヲカヒメ門外ニ
候ニテ之ヲ受ケ入ル庭中ニ立ツルカ
次ニ献
奏風俗

此儀昔ト今トハ大ニ同シカラス真観儀式ニミエタル如キハ先鉦人鉦ヲ撃等ノ儀アリテ弥異ナレハ之ヲ異ス江次第ニミエタル如キハ吉声人哥人哥女哥此処ニテハ悠紀ノ国司ニ宰并ラレテ悠紀ノ風俗ノ哥ヲ哥ヒナカラ参入シ八人ニテ風俗ノ哥舞ヲ奏シ退出スル今モ風俗ノ哥トテヲヲラカニメ作ラル其中ニ悠紀主基各辰巳両日ノ参入退出ノ吉声楽ノ破急寺人等アリ悠ニトモ是只先例ニ従ヲテ作ラルヽノミニシテ節會ノ日之ヲ哥ヲ聞カス供奏風俗ト云処ニテハ伶人撥掛ノ東遍ニ跪イテ地面ニテ笛ヲ奏又今明両日三ヲ四度皆同シク吉取ナリ唯庭コトニ調子ヲ変ヲ奏スルノミ今日ハ左兵衛大尉春宿祢（岡伊豆守）之ヲ奏又昔ハ風俗ヲ奏セル次雅楽寮モ又楽ヲ奏又中古次来ハ真似見ヘス若クハ此伶人ノ笛ヲ奏スルハ悠紀主基ノ風俗ヲ奏スルニハ非スシテ風俗ノ後ニ奏スル雅楽寮ノ楽ノ遺俗ニヤ

次三献

御酒勅使

是ハ納大史ノ幄ニ御酒ヲ給ハニシトノ勅使ヲ仰スルナリ中古以後ハ幄ニ候スル人ナシト雖猶古風ノ存

ニテ之ヲ仰ス其儀先内舎人ヲ起テ警衛ニテ申
シテ云ク大夫達ト御酒給ヘ御掃部寮晝リテ座ニ
復リ座ニアル參儀ノ内一人ヲ召フ其官名ヲ副ニテ唱ヘ
テ之ヲ召フルヽ人起テ内弁ノ後ニ
立ツ内弁仰テ云大夫達ト御酒給ヘ參議称唯シ
揖シテ正面ノ階ヨリ下リ階下ニ至リ外記ヲ召テ勅
使ニ先ヘキ名ヲ問外記之ヲ書テ進ラス參議受
テ懐中ニ納メ還リ昇リテ其人ノ名ヲ召フ但其人ノ參
進ズルヲ待久シテ徹音ニ大夫達ト御酒給ヘト仰セ
晝リテ儀座スルノミ宴ニ勅使ノ立ニハ非ス世參儀者

御門督勸ム
献御掃頭 今度者和琴奏
掃頭ハ上世ヨリノ風俗ニテ風流ノ屬ニ時ノ草木ノ
花ヲ冠ニ挿ム然リ仍テ其ニ其花ヲ掃頭トモ後ニ
前[抹]花ヲモ用ル故ニ其時ナラス花ヲモ掃ヲ此
所ノ掃頭ナトモ作花ニテ真ニ非ス献ル蓋
ニ載テ之ヲ献ル真観ノ比ハ花及机ニ盛リ高机ニ居
テ銚ヲ以忙トスルヨシ見エタリ江次第ニハ菜
ニ載ス今ハ高蓋ノ如クナル蓋ニ載紅ノ四菱ノ後ノ帋
ヨリ其献ル様ハスナハチ左ノ文ニアリ和琴ハ是モ

真観俊式ニモ工夕ルハ長サ二尺八寸和琴二面各袋ニ
納レ花足机ニ盛リ高机ニ居テ物ヲ以覆フトヨリ
江次第ニモ工夕ルハ案ニ載ス今モ和琴ハ二面献ズレトモ
別ニ真葉ナレス真観ノ比此時挿頭和琴ノ外ニ衆
頭子等ヲモ献ツル中古以後ハ真俊見エス
掖殺國司等下殿拝之昇階立南第一
今度ノ掖殺ハ国郡ト定ノ所ニ注セルカ如ク三条大納
言方正小路中納言方御門督三人ナリ並ニ今日
ノ群卿ノ中ニアリ国司ハ悠紀国司ニテ上ニ注ス
カ如シ但此ニ下殿スト云ル国司ハ宰相中将ナリ又静御

ノ中ニアリ南第ハ南カノキト訓スト云ヘリ下殿ヒテ正
面ノ階下ニテ忙ヲ撤シ之ヲ拝テ昇リ南廂ニ立ル
次内弁起座奉之
内弁座ヲ起テ基ニ就テ御挿頭ヲ敬テ戴テ院ヲ
進ミテ御帳ノ下ニ候ス天皇目シ給フ内弁即御挿
頭ノ御冠ノ左ノ方ニ挿ミ奉リテ後座ス其御挿頭
ハ銀ニテ作レル櫻花ノ
次群卿下殿拝舞就後座
拝舞ハ再拝舞踏スルナリ再拝ハ本ヨリ拝謝ノ気
舞踏ハ欣躍ノ気ニテ手ノ舞ヒ足ノ踏ムヲ知テサル

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

意ナリ其儀先立テ笏ニ両ノ手ヲ揖テ再拝シ改
ニ居テ再拝シ次ニ笏ヲ石ノ傍ニ置テ立テ左右ニ舞
ト次ニ居テ左右ニ舞ヒ次ニ笏ヲ把リ立テ前ノ如ク再
拝スイツトテモ拝舞ノ儀ハ如此ニ辞傍小忌ヲ先トシテ
西廂ヨリ下殿シ前ノ如ク標下ニ異位重行ニ列シテ
拝舞シ訖リテ又西廂ヨリ昇リ殿上ノ座ニ復リ着
ナリ是観ノ此ト今日ノ儀ハ儀式節会ノ時ハ拝頭和琴等ヲ
献ツルニテ畢ル此舞踏ノ儀ナトミエス
次賜臣下拝頭
悠紀行事ノ弁之ヲ賜フ今度ハスナハチ頼要之ヲ勤ム

往昔ハ大臣ノ拝頭ハ大弁之ヲ進ラス若大弁在ラサレ
ハ揖枝ノ参議之ヲ進ラストアリ今度モ関白ノ拝頭
ハ左衛門督進ラセラルヘシト仕セタリ夕詩ナクス其拝頭ノ座
昔ト今ト卿同シカラス昔ハ親王紅梅大臣藤納言櫻
参議山吹ナリ今ハ大臣藤納言山吹参議梅並ニ真
諭ニテ作リ喚金ヲ懸ケ而シテ関白以下其拝頭
ヲ取テ各冠ノ右ノ方ニ挿ム
此間揖枝行酒弁執子
行酒ハ酒ヲヒクナリ揖枝ノ公卿自余ノ公卿ニ酒ヲ
勧ム弁執子ヲ執テ之ヲ盛ル此儀貞観ニハミエストイ

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

〈応天門ニ近代此変ナシトアレハ中古以前ノ儀ナルヘシ〉

入御

真俊出御ノ所ヲシテ知ヘシ

近仗称警

上ノ称警ノ所ニ注スカ如シ

次群卿退下

退下シテ外弁ニアリ退出シテ家ニ帰レニハ非スト

同日至基節會次第

至基ノ殿ノ回廊ト定ノ所ニ注スト自余ハ惣テ以行ハレ今ノ所ニ注スカ如シ昔至基ノ国ノ貢スル物ヲ以行ハレ今モ其分ナリ但至基ノ儀ノ吉日ハ明日ナリ今日モ先行ハレトイヘ共其儀小ニキナリ古今共ニ然リ

近衛陣階下

惣テ此ノ所ニ注スカ如シ凡至基ノ儀ハ惣テ儀ニ依テ諸変改ノ催スニ及ハス故ニ此儀ヨリ初ニ但書ハ諸仗モ惣テ此ノ如クニテ啓陣セス故ニ改メテ陣スルノ文ナシ会ハ一度啓陣シテ改メテ陣ニ

内侍陪檻
次内弁謝座昇殿喜元子
改官喜加下座
亜ニ惣ノ所ニ注スル如シ改官出仕ノ人モ惣ノ
時ノ如シ
辞卿参列以下忌偏先忌倹之 諸伏ス
惣ノ所ニ注スル如シ辞卿ノ中内大臣ハ内弁ナルカ故ニ
此列ニ入ラス其外ハ惣ノ時ノ如シ
内弁ノ舎人ノ名ヲ少納言ニ告ケ
侯主基ノ時ハ十二日

辞卿謝座謝酒就昇殿喜座
惣ノ所ニ注スル如シ内弁数尹ヲ仰スル侯ナシ
次供御湯
其侯一如前不供白黒酒
御湯ヲ供スル侯ハ二日下二膳
饌ノ色目等皆惣ノ所ニ同シ唯白黒ノ御酒
ナキノミ
次一献
主基ノ舞哥ハ明日献スル故ニ此時献ラル侯ナシ
次二献

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

奏風俗

古今ノ俗悠紀ノ所ニ注スル如シ其伶人モ悠紀ノ時ニ同シ

次三献

御酒勅使ヲ仰スル俗ナシ其拝頭ヲ献ツレ共慶ノ声観ノ比ハ辰巳両日各両度ナリ又献ツルトシモ江次第以下ハ辰日ハ悠紀ノ時モ日ハ主基ノ時ハカリニ献ツルヲ今モ之ニ同シ

次内弁奉見参就賜少納言奉スルトハ其見参ノ見参ヲトハニ参仕セル人ヲ云奉スルトハ其見参ノ歴一名ヲ奏スル十リ中古以前外記式ヲニ仰セラル位以上ノ見参ノ歴名ヲ進テ近世ハ外記直ニ見参ヲスル公卿ノ歴名ヲ注シテ之ヲ進ル今日ハ権少外記中原ヲ儀(内蔵助)之ヲ進ル是其人々ニ禄ヲ賜ハラントテノ俗ナリ此少納言モ前ニ同シノ紀昌朝臣ナリ先内弁下殿シテ西廊代ノ元子ニ着テ見参ヲ見畢リテ昇殿シテ之ヲ奏覧シ下殿シテ少納言ニ受ク昔ハ少納言其歴名ヲ持テ庭中ニ進ミテ禄ヲ賜フ人々ノ名ヲ唱フル俗アリ是亦少納言ハ少変ノ動ノ意ル歟ナルカ故ニ如此シ今ハ名ヲ唱フル俗ハシテエサレトモ旧例

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

ニ従フテ少納言ニ授クルヤウ
次参議向禄所
此参議ハ事相中将（六条有房卿）勤ム禄ヲ賜フ其賜フ禄前庭
カタメ俟ノ曼リニ見参ノ人ニ
ニ積其積ル所ニ向フヲ向禄所ト云ヒ是ヨリ前内弁
見参ヲ奏セル路ニテ参議ノ内一人禄所ニ向フヘ
キ由ヲ示ス其参議下殿シテ
ナケレトモ梅積ムヲモナシヲカシ人宣仁門ノ南
辺ニ床子ヲ立参議ノ西廊ヨリ下殿シテ此床子
ニ着，群卿退出ニ此門ヲ経ル時禄ヲ受ケヌ仍

テ其所ニ向フヲ向禄所ト云ヒ
次群卿下殿賜禄退出
惣給ノ禄ト称ス惣給ノ国ヨリ献ル所ニテ即上ニ
ユクル掃頭和琴ヲハ時ニ献ル食籠子ノ韓櫃ニ納
クルヲ殿前ニ列子ヲ而シテ之ヲ賜フ但中古以後ハ
食籠子ヲ献ツル俟ナリ旦今ハ惣ノ節会以下ニ
賜禄ノ名ノシ右ヲ実ノ禄ナリ白紙ヲ以禄ノ代トシ
其白紙ヲモ実ニ賜ル二ハ非ス上ニミユル宣仁門ノ
参議ノ床子ノ北辺ニ六位一人白紙ヲ持テ坐其
前ニ簀蓆一枝ヲ敷群卿退出セントテ其前ニ至ル

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

時一人ツヽ簀底ノ上ニ上リ立テ警柝ヲ笳ノ声ヲ以笳旦ニ六位ノ持タル白紙ニ隔テ一枝又ハ白紙ヲ笳旦ニ受取テ一等ニ譽リ更ニ返授クル人モアリ其禄所ノ参議我巡ニ當リクル時簀底ノ上ニ出テ笳ヲ鍋鉉スルヿ余ノ群卿ト同シ如ク夕ニテ脇ト夕白ナリ故ニ只一行ノ白紙ヲ以数輩ノ脇禄ノ役ヲ如ク譽ル苦ハ此禄而刻ニ脇フ

入御

近仗称警

蓋ニ出御ノ所ヲ見テ知ヘシ此入御必ヒモ郡卿ノ下殿ヒ譽ルヲ待タス静ニ豊明ノ所ニ注ス

大嘗會儀式具釈巻第八

七日悠紀節會次第

辰ノ日ノ所ニ注スカ如シ但悠紀伎ノ當日昨日ナリ今日モ亦行ハルトイヘトモ其伎小ヒキナリ古今共ニ然リ今度十一日ナリ○

七天晴

御装束一如昨（不置奏詔版）

殿上ノ群卿ノ座及葦盤尋常敷群卿列立ノ標等ヲ儲立ル事昨日ノ如シ但今日ノ○中敷者ハ少亟密行山口右大史仕丁其奏詞

ノ奏ハ昨日ハカリニシテ今日ハ十ニ仍テ奏詞
版ヲハ置カス

群卿着仗座

辰日ノ所ニ注スカ如シ今日出仕セル群卿ハ右大
臣一条通 権大納言 藤原経季卿 三條大納言
利卿 季徳 大寺大納言 藤原実 新大納言 坊城俊
卿 今出川中納言 藤原公 卿 葛原親王小路中納言 極房卿
東園中納言 基時 新中納言 柳原光 右衛門
督 飛鳥井雅 相雅 香卿 大弁宰相 中将 藤原経 大枚卿門 三條大納言
資 橋本 宰相 中将 藤原実 松木大 宰相 中将 藤原宗 長朝臣 等ナリ群卿ノ

中右大臣ハ端座ニ著セラル

内弁令宣人数勝実名外記問諸司具否

辰日ノ所ニ注スカ如シ今日ノ内弁ハ右大臣
勤メラル陣官人ハ昨日ニ同シ外記今日出仕
セルハ大外記師守 中原 権少外記 清原 権少外記中原秀昌
両人ナリ

次群卿起座

辰日ノ所ニ注スカ如シ

近衛陣階下

辰日ノ所ニ注スカ如シ今日右次将ハ英季朝臣

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

大宮中將　家季朝臣　清水谷中將　信全朝臣　七條中將　右次將

通積朝臣　東久世中將　公久朝臣　姉小路中將　定之朝臣

節宮少將　出仕ス

出御悠紀帳

近仗儀警

並ニ辰日ノ所ニ注ス如シ　今日ノ御衣紋ニハ前

藤中納言　高倉永房卿　御前ニ

資時卿　參仕ス　昔ハ此出御辰剋今慶ハ午ノ五

剋ハカリ

郡々着外弁　以下忘為先ニ下倣之

辰日ノ所ニ注ス如シ　此群卿ハ内弁ノ外權大納言

以下ナリ　其小忘ル卿ハ仰辰ニ午ニ必

參仕スレハ今日ニ而昨日ト同ニ午三分ナリ

政官回着床子

辰日ノ所ニ注ス如シ　今日ノ床子ニ着ル八少納言

在秀朝臣　唐橋大外記　中原秀昌

史生　宗圓　童行　清木右衛門大尉　清木左兵衛少尉

宗圓右兵衛大尉　召使　宗圓　行事　秀清木左兵衛少尉　奉勅要　奉筆　權中納言　清流　爲九　左大史　直春　宿禰　主生　主殿頭

左少史　小槻方教　安田良　右史生　紀春清　行文官　和泉子

左官掌紀氏兼小野左衛門少尉
氏信岩崎近江権大掾　右官掌紀氏房在田右衛門大尉　右官掌紀親縁掌内大允　召使宗岡秋行青木左衛門少尉等
外弁上卿令召使下式筥召外記問訪具否
辰日ノ所ニ注スカ如シ上卿ハ三條大納言ナリ
内弁着東廂代元子
辰日ノ所ニ注スカ如シ又江次第ニ見エタルハ
三日ノ内弁廂ノ元子ニ着ハ辟卿外弁ニ
着ト同時ナリ
内侍臨揖

次内弁謝坐昇殿着
政官着砌下座
並ニ辰日ノ所ニ注スカ如シ
次開門
真観儀式ニ見エタルハ今日モ昨日ニ異ナル
ヌ故ニ又江次第ニ依テ行ハル
両門ヲ開ク今ノ儀ハ紫宸殿ニテ行ハル
承明門代トシテ南門ヲ開ク又辰日ノ所ニ
注スルカ如シ其開ク儀内弁ノ人堂上ノ元子
ニ在テ顧ミテ開門仕奉ル卜仰スル則左右ノ

近衛ノ官人南門ニ向フテ之ヲ開陣ノ官人
軒廊ノ階邊ニテ開門仕奉候申ス
是定ニ候也 作日ハ奏詞奏ヲ
開門スル事早シ今日ハ奏詞奏ナキカ故ニ
開門スル妻常ノ節會ノ如ク内弁昇殿ノ
後ニ奏ル
次内弁召舎人大舎人称唯
辰日ノ所ニ注スル力如シ大舎人今日出仕セル
ハ少先高橋奈會荒木右兵衛少尉
次少納言就版

辰日ノ所ニ注スル力如シ今日ノ少納言ハ在秀
朝臣ナリ
内弁宣召称唯出召之
群卿參列異位重行諸仗立
内弁宣一數ヲ
群卿謝座謝酒就昇殿着座諸仗居
並ニ辰ノ日ノ所ニ注スル力如シ其謝酒ノ時造酒
正師守堂童ヲ權大納言ニ授クル妻ホ
作日ニ同シ
次撤御膳盤帋

内膳供御膳

並二其俊及内膳ノ官人御膳ノ色昨日ニ同ヒ

次供残御膳

其俊及御膳ノ色作日ニ同ヒ

次陪臣下粉熟 以小豆為先居就内舎候天気

辰日ノ所ニ注ス力如ヒ其大膳職小鍬久宣 徳岡

伊豆守 出仕スル妻亦昨日ニ同ヒ

次供蛇羹

次供御飯

並二辰日ノ所ニ注ス力如ヒ

次供進物所御菜

次供御厨子所御菜

並二其俊及供スル色昨日ニ同ヒ御厨子所預

宗直高橋奈 出仕スル妻亦昨日ニ同ヒ

女正

次陪臣下飯汁居就内舎候天気

御箸鳴臣下應之

並辰日ノ所ニ注ス力如ヒ

次一献

奏和奏 今度奏此度

和奏ハ今世傳ハラス昔之ヲ奏スル俊ハ先掃

親王庭中ニ南北ノ行 座ヲ數其南ニ
床子ヲ立テ而シテ内舎人ヲ以舞人ト
十人者 衣ル花ル ヲ着座ニ行ノ座ニ分
着琴師二人床子ニ當テ二人着歌人十人
琴師ノ前ニ在テ次ヲ退出ス江次第ニ
シテ立タル一献ノ次ニ先ツ惣記物ヲ献ル但此
儀ハ江次第ニモ進代ナシトシテ多リ其次ニ
凡俗ヲ奏シ二献ノ後ニ和舞ヲ奏ス但兼保
ニハ一献和舞ニ献凡俗ノ由ニテタリ其觀
儀式ノ如キハ惣テ一献二献三献ノ宣ナシ

此所ノ和舞モ一両巡後下記ス今此次第
江次第ニシテタル兼保ノ例ニ同シ但和舞ノ
様傳ハラサルカ故ニ之ヲ奏セス用ユヘシ

次二献

奏凡俗

古今ノ儀辰日ノ所ニ注スル如シ今日者取ヲ
奏セル令人ハ内藏大先近 土右近将監 ナリ
者

次三献

仰御酒勅使

辰日ノ所ニ注スル如シ今日ノ御酒勅使ハ

大芋ノ頭之ヲ仰ス此次ニ挿頭ヲ献ス凡例ナシ

辰日ノ主基ノ三献ノ所ニ注スカ如シ

入御

辰日ノ所ニ注スカ如シ今度此入御ノ刻ニ過

脂燭ノ殿上人ニハ賞禄雅朝臣(垣内中將)時行朝臣(右侍從)

手松少納言 行忠朝臣(石井侍從) 故季倫(五位侍從)藍染(長谷侍從)

基揃(石野侍從) 源澄仲(忘亡寺次藏人) 老歩仕ス

近仗称躑

辰日ノ所ニ注スカ如シ

次群卿退下

下殿ヲ外弁ニヲ凡辰日ノ如シ

同日主基節會次第

辰日ノ所ニ注スカ如シ今日ハ主基供ノ当日ナリ

近衛陣階下

出御主基帳近仗称警蹕

並ニ辰日ノ所ニ注スカ如シ近仗ノ人悠紀ノ時ノ入御ニ時ニ同シ脂燭ノ殿上人悠記ノ時ノ入御ニ同シ昔ハ此出御未刻今度ハ戌刻ニ過内侍

内侍着西廊代元子

辰日ノ所ニ注スカ如シ内弁ノ人ハ悠記ノ時

二同ク

内侍陪膳

次内弁謝座舁穀倉元子

政官舁砌下座

並辰日ノ所ニ注スカ如ク群

辰日ノ所ニ注スカ如ク群卿

群卿参列（以小忌屬先ヲ下倣之）給仕立

ノ時ノマヽナリ

群卿謝座謝酒訖舁穀倉元子

政官出仕ノ人ハ惣記ノ時ノマ

辰日ノ所ニ注スカ如ク群卿ハ惣記ノ時ノマ

ナリ

群卿謝座謝酒訖舁穀倉元子

政官出仕ノ人ハ惣記

次供御膳

其儀一如前

御膳ヲ供スル儀并ニ皇下ニ陪ノ儀及出仕ノ人共饌ノ色目等惣記儀ニ同ク

次一献

奏田舞（今度無比儀）

田舞モ亦今世停ハテヌ昔ヲ慕フ儀ハ多治比氏ノ内舎人等ヲ舞人トシテ十人舞テ奏ス但此所ノ次第古今一様ナラス具観ノ

此ハ先田舞ヲ奏シテ次ニ御贖ヲ供シ次ニ雅楽
寮樂ヲ奏又江次第ニ見エタルハ御贖ヲ供シ
一献ノ後主基舞味ヲ献リ次ニ久米ヲ奏シ
二献ノ後田舞ヲ奏シテ樂人音樂ヲ奏ス
今此次第ハ辰日ノ悠紀風ノ次第ニ同シ但田
舞ノ標傳ハラサルカ故ニ之ヲ奏セス
主基献舞味
今日ハ主基帳舎ノ当日ナレハ主基方ヲ
リ之ヲ献ツル其舞味ハ鳥ヲ机ノ枝ニ附タルト
鶏ノ鳴真似ヲ附ケタルトナリ其献ツル

標ハ方ノ文ニ立タリ
行幸奉寧国司等贖訖之立庭中
行幸奉ハ主基ノ行幸ノ事ナリ
国司モ亦主基ノ国司但此時庭中ニ立ツ国司
ハ権掾紀氏房在田右衛門大尉一人ナリ氏房机ノ
枝ヲ擎ヒ贖部鹿鳴草ノ枝ヲ擎ヒ清涼
西人ヲ率井テ前ニ立昔ハ此時内弁之ヲ問
以下ノ儀ヲリ悠紀ノ舞味ノ所ニ注スカ如シ

次ニ献
奏風俗

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195
ガラス使用

古今ノ例辰日ノ悠紀ノ所ニ注スカ如シ其伶人ハ今日ノ悠紀ノ時ニ同シ

次三献

献御掃頭（今度無和琴）

撿校国司等下殿拝之

其ニ辰日ノ所ニ注スル如シ其撿校三人ハ余日モ等ニ静御ノ中ニヲリ国司ハ主基国司ニ

于辰日ノ所ニ注スカ如シ但此ニ下殿スト云ル国司ハ権守亜流朝臣（広橋左大弁宰相）

（第七巻目見エ）

昇階立南榮

次内弁起座奉之

其儀及御掃頭ノ花辰日ニ同シ但昔ハ辰日ノ掃頭ハ大臣之ヲ奉リ今日ノ掃頭ハ親王之ヲ奉ル是五ニスル変十九ヘシ今世ハ惣テノ儀ニ親王ノ出仕スル変ナシ仍テ両日共ニ内弁ノ大臣之ヲ奉ル

次舞御下殿拝舞訖復座

辰日ノ所ニ注スカ如シ

次賜臣下掃頭

主基国行事ノ弁之ヲ給フ今度ハ今清涼

之ヲ勤ム但昔ハ大臣ノ侍頭ハ大弁之ヲ進ラス
大弁在ラサレハ按察ノ参議之ヲ進ラストヤリ
今度モ右大臣ノ侍頭ハ左衛門督カ進ラセタルナルヘシイテタノ詩ナラス其侍頭
カ進ラセタルナルヘシイテタノ詩ナラス其侍頭
ノ花ハ辰日ニ日ヒ右大臣以下各其冠ノ右
方ニ挿ム
此間按抜行酒 弁机 就子
次内弁奏見参就腸ム納言 奉ルモ亮ニ是
弁ニ辰ノ所ニ注スカ如シ但ム納言ハ在秀
朝臣 唐橋ナリ

次参儀両禄両
次群卿下殿腸禄退出
弁ニ辰日ノ所ニ注スカ如シ今日ノ禄ヲハ主
基禄ト称スト昔ハ此禄主基ヨリ献レル
所ノ衾禎子ナリ辰日ニ准ヒテ知ヘシ此禄
モ昔ハ両剣ニ腸フ

入御
近仗称警
弁ニ惣テ此ノ時ニ日ヒ今度ム入御モ必ヒモ群卿ノ下殿ヒ暮ルヲマタ

又諍ニ豊明ノ所ニ注ス

次行幸藏人裝束清暑堂代 今度毎出御

今度ノ行幸ノ中藏人頼安清流ト部兼矩

藤井新藏人 ナリ清暑堂ハ昔豊樂院ニヲリ別

辰モ而ハ御セテル、所ニテ御神樂モ此

所ニテアリ今ハ豊樂院ヤキカ故ニ兩日ノ

節會ハ紫宸殿ニテ行ハレ御神樂ニヨリ

テハ内侍所ノ御廟下ヲ清暑堂代トシテ又

行ハル故ニ先裝束ス裝束ハ飾ト云ニ

同シクヨソホヒカサルヲ云但此時ノ御神樂

ノ俄眞觀ノ比ハミエス江次第ナトニハ見エタ

リ其俄ニハ天皇出御ナシ

供ス今度ハ出御ナシ

次御神樂 無御遊俄

昔出御アリテ御神樂等ニ御遊アリシ

俄ハ江次第サトニミエタルカ如シ今ハ出御モ

ナク御遊モ無シハ其俄ヒトシク唯笏

ニ堪タル公卿侍臣等ニ俗人神樂ヲ奉仕

スルノミ今度堂上ニテハ本柏子ニ按察使

綾小路前中納言信俊宿禰 未拍子ニ薩摩左中將 驚馬左

附

歌ニ持明院前中納言基雄 宮内卿 九辻三位 庭田頭中将 地下ニテハ李柏子ニ讀收守忠寿朝臣多朱柏子ニ左近将監久長多隊歌ニ和泉守忠宣 安部右近将監 笛ニ内匠權助景貫 山井九兵衛少尉 左衛門少尉 神景紬 小井奉仕ス

大嘗會儀式具釋奉第九

豊明節會次第 垂加叙位

豊明ト云宴會ヲ古ク宴會豊樂等ノ字ヲ並ニトヨノアカリト訓ス大嘗新嘗ノ後ニ限ラス惣テ勧ノ宴會ヲ假令ハ正月朝ノ豊樂正月七日ノ豊樂ナトノ類ナリ臨時ノ宴會トテモ亦トヨノアカリト云共大嘗新嘗ノ後ニハ必宴會アリ仍テ大嘗ノ豊明新嘗ノ豊明ナトハイヘト節會ノ字ヲ加ヘテ豊明節ト云ハサリシヲ中古以後ハ十一月ノ節會ノ名トナリテ豊明節會ト称スル其大

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

掌ノ辰モ毛節會ナレトモ是ハ大掌ノ例ノ中ナリ今日ハ大掌ノ例暑ニ依テ更ニ宴會ヲ行ハレス心ニテ此節會アリ大掌ノ例ハ巳日ニテ宣ル故ニ今日ニ豊明アリ新掌ノ例ハ卯ノ日ニテ暑ル故ニ辰日ニ豊明アリ真享ノ大掌ニハ辰巳兩日ノ節會ヲ略セラレシ改新掌ノ時ノ如ク辰日ニ豊明アリ今度ハ巳式ニ復セラレテ午日ニ行ハレシナレハ真享ノ豊明ハ一日ニテ辰巳午三日ノ代リ例ナレハ昔ノ豊明ノ例ニ異ナル所多シ今度ハ昔ノ如ク三ケ日ニ行ハレシナレハ昔ノ例ニ近シ

但昔ハ今日ノ節會王卿以下ニ位階ヲ如例ノ仍テ節會ノ例ノ中ニ叙位ノ例交リ行ハレ今ハ加叙ノ例ナレ仍テ節會ノ次第昔ト一同ナルニ非ス

早旦裝束司奉仕上下裝束

裝束司ハ当日ノ役ノ名籍ニ裝飾ニテヨリホヒカサル殿上殿下ナリ裝束ハ裝束司ノレニノ役人ヲ率井テ上下裝束セシムル左ノ文ストハチ兵裝束ノ様ナリ但昔ハ豊樂殿ニテ行ハレ今ハ紫宸

殿ニテ行ハル故殿内殿庭ノ装束以下君臣ノ
座共ニ大ニ昔ト同シカラサル変有ヘシ
注スルカ如シ

其後撤御帳装飾畳御座皆悉ク
御座同南庇殿小忌座各畳盤
是殿上ノ装束ナリ御帳ハ昨日悠紀主基ニ
モアルヘシ御帳之ヲ撤シ去テ高御座八階アル高
キ御座ナリ御座ノ廻ニハ榻幡ヲリ四方ニ
ハ錦張ヲノヘ上ニハ
鏡張翠
珞ナトヲ掛ケ前ニハ錦帳ヲノヘ
八角ノ屋根アリ其頂ニハ鳥形ヲ居ユ藤原

光忠卿ノ図説ニ見エタル昔ノ高御座ハ珍瓏タ
ル物ナリ今ハサホトニハアラス子
リ冊書ヲ以綵リ其壮厳
難シ大嘗当時大社ノ神
高御座ハ行幸官之ヲ掌ル今度モ行幸官
行幸官之ヲ飾ル群卿参夜半
大臣花山院
常雅公
権大納言大炊御門
経秀卿
右大将九条植
基卿
新源
大納言唐橋
在豊卿
宰相
中納言
秀定
卿
阿野中納言
実顕
卿
今城中納言
定種
卿
東園中納言
基賢
卿
清閑
寺中納言
秀定
卿
式部権大輔
唐橋
在豊
卿
冷泉
宰相

宗家卿定後朝臣 弾正尹 中将宗長朝臣 松木左京亮 相中将等ナリ但此中右大将ハ朝ニ臨モテ不参セラル其座殿内ニテ膳ニ着ク座ナリ故ニ臺盤ヲ立ツ臺盤ノ妻ハ忘大納言ノ飯ノ所ニ注ス小忘ヲ卿ハ辰モノ日ノ如ク三人並ニ辞卿ノ中ニアリ其小忘ノ座辰モノ日ハ次忘ノ座ノ上頭ニ設ク今日ハ南廉ニ設ク昔ハ豊楽院ニテノ新嘗ノ豊明ニ小忘ヲ卿ノ座ヲ南庇ニ設クル妻見エ分リ

中務省置版式部省立標

中務省今夜出仕セルハ権少輔時芳朝臣 高津越後守

故ニ宣命版ヲモ式部省ハ出仕セルカ故ニ又昔ハ今ノ殿前ニ舞臺ヲ構ヘス

又昔ハ今ノ殿前ニ舞臺ヲ構ヘス

辰日ノ所ニ注スカ如シ辞卿ノ中内大臣ハ内弁ホ候侍トノ卿ヲ奉テ端座ニ移リ着ク、妻国郡ト定由奉幣等ノ上卿ノ儀ニ同シ又昔ノ儀ハ今日モ辰モ日ト同シク伏座ノ儀ナレ共是亦禁辰敬ヲテ行ハルニ依サレハナク唯左ニ見エ分ル外任奏

辞卿着伏座

ノ時内弁ノ人着座スルノ
内弁令宮人數滿突名外記問訪司具否
辰日ノ所ニ注大力如シ令ノ内弁ハ内大臣勤メラル陳
宮人辰巳両日ニ同シ外記令夜出仕セル矣外
記師ノ宿 押小路 掃部頭 權少外記中原ニ後 山口内 藏助 両令リ
次外記持参外任奏
外任ハ外官トニ同シク訪司ノ司ナリ擬叙令
ニ凡在京諸司馬寮官自餘皆屬外官カヲル是
ナリ外任奏トハ元旦ノ節會ニハ小節ニハ五位
以上大節ニハ六位以下ニテモ宴ニ預カル矣辰日

以上六位以下ナリ外官ハ遠路ナレハ之ニ預カラス然
レトモ訪司ノ者ハナト上京候任官ヲ給リテイマタ赴
給ハラスシテ在京シ又ハ任替ヲ給リテイマタ赴
發セス又ハ國政ノ爲ニ假テ入京シ又ハ假ニ預カル
ノ行ハ、時ニ當レハ則宴ニ預カル其宴ニ預カル
人々ノ名ヲ録シテ奏スルヲ外任奏トニ今世ハ
京官トテモハ公卿ニ非サレハ宴ニ預カラス且訪司
ノ人ハ司ニ有名無實ナレハ宴ニ預カル今ノ人ハ
アラサレトモ旧例ニ從テ此奏アリ勿論今日ノ
幕會ニ限リ名ノミ奏ニハ非ス元日白馬以下皆然

り但大嘗ノ辰日已日ニハ昔ヨリ此奏ナシ是事ヲ
今日ヤルカ故ナルヘシ今此外任奏ハ外記陳座ニ
持參シテ内弁ニ進ス
次内弁以職妓奏圓就退場
内大臣職妓ヲ以外任奏ヲ奏閒ス其奏皆ノ蓋ニ入タ
ル職妓先殿上ニ持參シテ圓ス閒旨 内覧セシムル妓
常ノ如シ就テ内侍ニ附テ之ヲ奏圓ス列ニ候ハシ
メヨト仰セテ退場ノ職妓持来リテ内大臣ニ返
進ス内大臣之ヲ結ス職妓仰ノ詞ヲ仰ス内大
臣職妓ニ目ス職妓退去

次内弁名外記給外任奏
仰ノ詞ヲ仰セテ之ヲ返給ノ
次靜儛起座
内大臣以下皆陣座ヲ起ツ
近衛陣階下
辰日ノ所ニ注ス力如シ今夜ハ次将ハ公卿朝臣
正親町三位中将雅重 朝臣飛鳥井中将雅孝 名右少将
季朝臣小倉中将實雅 朝臣櫛笥中将隆望 實親朝臣山木中将出仕ス
皇上御高御座
近仗称警

無二辰日ノ所ニ注スカ如シ今夜ノ御衣紋ニハ山科
前中納言 藏言卿 御前衣紋ニハ宮内卿 立辻三位 廣仲卿 奏仕ス
時燭ノ殿上人ニハ房季朝臣 園比右中弁 嘉孝 朝臣 倉橋中務少輔
氏条朝臣 山井正少納言 尋 公全 凡尋侍従 榮通 久世侍従 家長 高辻侍従
丹波頼亮 小森内蔵人 出仕ス今夜此御成刻
群卿参外弁 以小忌為先 下傚之
辰日ノ所ニ注スカ如シ此群卿ノ内弁ノ外権大納言
以下十人
政官同参床子
辰日ノ所ニ注スカ如シ今夜床子ニ着ク六少納言

時行朝臣 于松 大外記 師守 権少外記中原 于俊 史
生宗岡重行 青木右衛門大尉 史生宗岡経直 宗岡右兵衛大志 召使
宗岡行亨 青木云 善少名 弁豊尚 口頭 右少弁 左大史盛春 宿禰 壬生主 殿頭 左大史生紀春清 行支官 和泉守 右
左少史高橋春明 村田官 内少丞 右史生掌 紀氏 兼 小野左衛門少尉 左官掌 代右官掌 紀氏信
右官掌 紀氏房 左衛門大尉 右官掌紀親縁 右官掌 紀氏 兼 小野左衛門少尉 左官掌 代右官掌 紀氏信
掌内匠大允 召使宗岡秋行 青木左衛門少尉 等十人
外弁上卿令召使下式筥召外記問諸司具否
辰日ノ所ニ注スカ如シ上卿ハ右大将十人
内弁着床子

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

是摩代ノ元子ナリ是ハ辰日ノ所ニ注スカ如シ

内侍臨檻

次内侍御座昇殿着元子

殿宮着砌下座

並ニ辰日ノ所ニ注スカ如シ

次開門

皆ハ豊楽殿鴻門ニ開キ余ノ門ヲ閉ス其儀ハ巳日ノ所ニ注スカ如シ

開司分居

園司ハ女司ノ名長官ヲ尚園次官ヲ典園ト云黄詔

門ノ管鑰ヲ頒ツヲ之ヲ出納スル麦ヲ掌ル校ニ開門ヲ

ル時其門ノ左右ニ分居ル余ノ尚園典園ノ差別モ同ス

又旦常ニ禁中ニ奉仕スル女司一人ハ大聖寺

宮ノ把ノ左右ニ分居ル余ノ尚園典園ノ差別モ同ス

頒ツヲ又唯遺ル存シテ郭舎ノ夜開門セル時門ノ

左右ニ分居ル其儀開門セル由ヲ陣官人ノ申シ

クル次ニ内弁元子ニ在テ又園司座ニ罷出テ仰

又但今世園司着座ト呼ハル如ク覚エタリ陣官

人又之ヲ傳ヘテ開司ヲ門下ニ進メシメ軒廊ノ階

ノ邊ニ陽来リテ開司着ク由ヲ申ス元日

白馬踏歌大嘗新嘗ノ豊明節等ニ開門セル時皆開
司分侯ノ侯ヨリ唯大嘗ノ辰巳日ノ開門ニ古今共ニ
開司分侯ノ侯見ユ
次内弁召舎人大舎人称唯
辰日ノ所ニ注ス如ク大舎人今日ノ出仕セル大允藤井頼中
少允高橋朝彦 荒木右兵衛少尉 ○召使宮園行福 春木右衛門少尉 寺
ナリ
次少納言就版
辰日ノ所ニ注ス如ク今日ノ少納言ハ時行朝臣ナリ
内弁宣召カ称唯出召之

群卿参列 異位重行 諸伏立
内弁宣敷奏
群卿謝座酒訖昇殿着座訖伏居
並ニ辰日ノ所ニ注ス如ク其謝酒ノ時造酒正佐守
宮主ノ権大納言ニ授ク巳辰日ニ同ジ
次撤御臺盤帋
内膳供御膳
並ニ其侯及内膳ノ官人御膳ノ色辰巳日ニ同ジ
次供残御膳
其侯及御膳ノ色辰巳日ニ同ジ

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

次陽臣下物部以下忌屓先
　　乙下倣之　　　　　居就内并候天気
御箸鳴臣下應之
次供蛇羹
次供御飯
　並二辰日ノ所ニ注スカ如シ
次供進物所御菜
次供御羹汁所御菜
　並二其例及供スル色辰巳日ニ御厨子所預宗五
　高橋
　朱女正出仕スル妻亦辰日ニ
次陽臣下飯汁居就内并候天気

御箸鳴臣下應之
　並二辰日ノ所ニ注スカ如シ
次一献
国栖奏
　国栖磐排別命ノ後ナリ神武天皇吉野ニ行幸シタマイシ時詔シテ磐排別命ノ子ニ国栖ノ名ヲタマワシヨリ世々和列ノ内東南ノ方山谷ヲ隔テ、吉野河ノ上ニ住リ其葦ヲ国栖ト云ヒ土地吉野ニ属セルカ故ニ吉野ノ国栖ト云ヒ神天皇十九年十月吉野宮ニ行幸シタマイシ時国栖ノ人来朝シ大御酒ヲ醸テ

之ヲ献ル其献ル時歌ヲ歌ヒ訖テ立テ伶人ノ
テ笏ヲ扇セリ是ヲ初トシテ時々来朝ニテ栗茵年奠
等ノ物ヲ献リ　天皇ノ御宇ヨリ七節ノ御酒ヲ献リ其
献ル時ヨトニ歌ヒ訖リテ即チヨテ伶人ノ例トナレ
リ古実記日本紀姓氏録等ニ見エタリ其歌ニ曰ク　記
日本紀及政事要略等ニ見エタリ但其詞ニ書卸不同リ
而シテ中古以前元日踏歌白馬以下節舎ニ必同而
奏トテ伎舞門ノ外ニテ歌笛ヲ奏シテ御酒ヲ献ツル
延喜宮内式ニハ同而ノ歌曲節ヨトニ十七人ヲ定トシ同
而ニ人笛ニ五人但笛ニ二人ハ山城同儀喜郡ニタルヨシ

見エタリ此ハ猶実ニ同而来朝セルト見エタリ中古以
後ハ同而ニ非サル人同而ノ名ニテ歌笛ヲ奏スル紫
宸殿ニテ行ル節会ニハ承明門ノ外ニテ奏スル known
ト笛トナリ今世歌ヲ奏スル唯侍人ノ形ノ如
一声ノ笛ヲ奏スル但南門ノ内ニテ奏スル外ニハ非スル今
度ハ内通権助景貫山井左衛少将ノ奏之ヲ勤ム先内大臣下
殿シ軒廊ニテ之ヲ催シテ奏セシム

次ニ献

奏久米舞今度元
此例

第舞ハ久米ハ日本紀ノ序ニ曰天孫降臨ノ時大

仲連遠祖天忍日命仲来目部遠祖天槵津大来目
天磐靫脩善棱威而靫手捉天梔弓天羽々矢及副持
目鳴鏑又帯頭槌劔而立天孫之前ト為リ又神武天皇
東征ノ時大伴氏ノ遠祖道臣命仲大来目部将ト為
踏山啓行トヲリ又日本紀ハ大伴金村ノ
々ニヲ時道臣命ニ詔宣仲大来目部誘奮而厳之ト勅シ
ケニヲ道臣命遂我槌夺奮雖厳トヲリ而ヒヲ其
時ノ道臣命ノ歌ノ詞ニ瑞々シ来目ノ子等カ頭槌石
槌持テシ 止メレトヲリ如此ケナレハ来目部ハ往昔ヨリ
大伴氏ノ祖ニ属スル者ニシテ軍卒トニテヲリ而ヒテ

猶日記ヲ考フルニ神武天皇兄猾ヲ誅シ給フ時ノ
歌ニ菅田ノ高木ニトテル御歌ヲ来目歌ト云テ今楽府
奏此歌トアリ又右ニ云シ道臣命ノ歌ヲ開ク土弁倶
ニ頭槌劔ヲ抜テ二時ニ奮ヲ投シ皇軍大ニ悦ヒテ天ヲ仰
イテ咲ヘルヲ今来目部歌而後大呂是其像也トアリ然
レハ昔々ノ豊楽ニ来目部来目歌ヲ歌フラ舞ヲ
奉仕シ歌ヒ訖テ呂ノ其舞ヲ久米舞トニト見エタリ但
真観ノ頃ハ既ニ来目部ナキカ如シ真観儀式江次第等
ニモ工久米舞ハ伴氏ト佐伯氏トノ五位以上ノ人左
右ニ分テ伴ハ左佐伯ハ右ニ在テ舞人ノ率テ南門ヨ

リ入舞臺ノ東ヨリ歩テ中庭ノ朱子ニ昇舞人二十人
版位ヲ夾ミテ二列ニシテ舞琴ヲ持チ侍
〃帥是大伴佐伯ノ大伴ニ伴ナヒ姓ナレハ二氏久米舞ヲ
率ニルト見エタリ又江次第ニハ舞ノ終リニ歌ヲ扱ク歌
ナシ琴ヲ以前ニ為トアリ歌ヲ扱クハ神武ノ古支ニ
據カサナリトモ来目ノ舞ナレハ歌ヲ扱ヘキ支ナリ
唯歌ナシトモ記ニ合ハス中古既ニ其歌曲傳
ラサルヘシ今世ノ舞モ傳ラス仍テ而此変ナシ

次三献

仰御酒勅使

奏吉志舞

吉志舞ノ製イマタ考ヘ大支ニ奏スル俄真覩俄式見エ
タルハ安倍氏人五位以上相分レテ列ヲ之ヲ奏セシム人数行
列等久米舞ニ同シトアリ江次第ニ見エタルハ舞臺ノ
西ヨリ歩テ安倍氏五位以下庶子ニ当高麗乱声舞一干
人楽二十人トアリ今ハ其舞ノ様傳ハラサル由ニテ只乱声ヲ
奏シテ倭人廻廻スルノミ今奏ス倭氏部氏泰部朝臣土御門俄
理大夫歩仕ス倭人ハ歩雲守ヲ行傾大隅守廣方宿禰称称

辰日ノ所ニ注スカ如シ今日ハ御酒勅使ハ式部権大輔之ヲ
仰ス

丹波守兼伯宿禰倭内直頭兼陳宿禰倭宋之頭近業
宿禰窪主野女忠敬朝臣多雄敬賢季矩朝臣東倭
橘清守菊伊朝臣老使守廣吉宿禰蘭方兵衛大尉
昌泰宿禰同伊賀守倫秋朝臣墨左近将監内蔵大允近菊
高彦左近将監伊賀守倫秋朝臣墨左近将監内蔵大允近菊
推助景貫左近将監好菊真方兵衛尉等出仕久吹奏ヲ奏
スル亦真観儀式ニハ久米舞ノ次ニ奏又其状惣ヲ載
献ノ後ト云定ナシ江次第ニ同
シ但弐三献前久米舞後下記ス真字ニハ三献ノ前ニ
アリ今度ハ後ニアリ必シモ一定ナラス又昔ハ此舘ニテ

大歌立節舞和舞等アリ真観ノ頃其上ニ悠紀主基
凡俗ノ歌舞所司ノ立歌等モアリ真観儀式江次第
等ニ見エ又繁ク十レハ之ヲ略ス

次内弁奏宣命見参禄法

宣命之刻ハ由奉幣ノ前ニ注ス此宣命ハ今日豊明ノ日ニ
依テ酒食ヲ賜ヒ物ヲ賜フトノ宣命ナリ昔ハ此ノ宣命
両度アリ初ノ宣命ハ悠紀主基ノ国司其外ノ人ヲニ
モ位ヲ進ノ為ニ由ノ宣命ニシテ是ハ早ク奏シテ御
膳以前ニ宣シ畢リ此ニ至リテ又酒食禄物ヲ賜フ
由ノ宣命ヲ奏ス今ハ加叙ノ儀ナキ故ニ初ノ宣明ナシ

後ノ宣命ノミヲリ赤是内記作進ス見参ノ実ハ辰日ノ
所ニ注ス禄法ハ字ノ如シ禄ノ員数ヲ記セル文ナリ中
古以前ハ見参ヲノミ式ヲ省ヨリ進リ其見参ヲ外記腸
ヲ外記更ニ計會シテ禄法ヲ割ス近世外記直ニ見
参及禄法ヲ記ス是ヨリ前ニ内大臣下殿シテ軒廊ノ
巡子ニ喚ク外記文トモヲ一双ノ文杖ニ挟ミテ進ル内大
臣文ヲ取見畢リテ文杖ヲ取テ昇殿シ御覧ル
南ノ妻ニ就テ内侍ニ附テ奏覧ス御覧畢リ
テ返給ヲ内大臣又下殿シテ文杖ヲ外記ニ返ス文杖
取テ堂上ノ座ニ復ス

次内弁召参議一人腸宣命又召一人腸見参禄法
宣命ヲ腸ヘル参議ハ即是宣命使今日ハ定後朝臣之ヲ
勤ム宣命ヲ受テ僕座ス中古以前ハ宣命ヲ授ル
議以上ハ人一人ヲ定メテ其由ヲ奏聞ス近世必参議ヲ
用ユ而ヒテ費用スル多見参禄法ヲ腸ヘル参
議ハ即是禄所ニ向フ今度ハ冷泉宰相之ヲ勤ム見
参禄法ヲ受テ直ニ禄所ニ向フ
参議向禄所
辰日ノ所ニ注スカ如シ
群卿下殿列立

參列 時ノ如シ但此ニテハ内弁モ日ニタ列立又其宣
命使ト称ノ參議ハ此列ニアラス又此下殿ノ
時ヨリ近仗床子ヲ起ツ
次宣命使就版
版ハ宣命版ナリ群卿下殿ヨリ後更後朝臣下殿ヨテ
進ミテ宣命版ノ南ニ就真進ム間曲レ折ニテ揖ス
是ヲ曲折ノ揖ト云
宣制 称舞如常
宣制ト制セシコトノリト訓ス紹命ヲ宣読ムモ
ナリ 貴ハ宣命ト云モ宣読ム態ヲ云中古以来ハ
其文ヲ指テ宣命ト云カ故ニ読ム態ヲ宣制ト称シ
テ之ヲ含ツ而シテ其文ヲ読ムモ実ニ読ムニハ非ス先
宣命大版ニ就拝シテ笏ヲ措ニ宣命ヲ砌間イテ
後押合セテ揖ニ顧ミルノトニシテ
群卿称舞スルナリ其様ハ庶ロノ所ニ住スカ如シ但宣
制ハ二版ナル故ニ群卿モ初ニ先再拝シ後ニ又称舞ス
是宣制ノ時ノ称舞ノ定ナレル例ナリ故ニ如常ト云
今度ノ宣命ノ文左ノ如シ
天皇我詔旨良方宣布大命中詔 聞食度宣布今日
止
波大掌侍乃典相乃豊楽曷辛者今年日乃在利故是以之思
表白天御酒赤丹乃穂食酒 良岐罷止為天奈毛常毛詔布

酒酣ノ御物語右ノ
止宣

元久三年十一月十二日

昔ノ例ヲ以イハ先語周倉
ヲ宣ハ此時辞臣称唯シテ両
一段トシテ宣シ畢ル此時辞臣次第ヲ以称唯シテ俱ニ
拝舞ス本古以後ハ爰ニ宣セラルカ如ク宣命使宣
命ヲ卿カ閑イテ押合セテ顧ミル時辞卿再拝シ次ニ
又宣命使初ノ如ク押合セテ顧ミル時辞卿拝舞ス
両度共ニ中古以来ハ称唯セス其辞卿拝舞ス仍宣
命使宣命ヲ奏セ掃シテ後ヲ離レ退キ昇リテ堂
上ノ座ニ復ル其庭上ニテ曲ヲ北ヘ折ヒテ又ト仍時曲折
ノ揖アリ進ム時ノ例ノ如シ抑今日ノ宣命ノ詞ハ古今
共ニサシテ替ル事ナシ但今ハ次ト云ル次ノ文昔ノ大掌舎
ニハ大掌乃至相ト記シ新掌舎ニ新掌乃至相ト記ス是
大ムヘスハ新ナメト訓読スルニ吉読スル意ト見エタリ
是由奉幣ノ宣命所ニ注スカ如クセニ字ヲ用ユ
元右古跡ニ合ハスス又内裏式真観儀式等ニ見エタ
ル宣命ニハ最リノ詞等ヲ略シ称唯トマリ酒酣乃ノ詞
ヲモ略シ此外ハ異ナル所ナシ

辞卿復座

宣命使渡座ノ後葛所ノ参議ノ外内弁以下ノ群卿堂上ノ座ニ復ル近仗胡床ニ居ル

次群卿下殿踏舃退出

若ハ群卿渡座ノ後式部輔庭中ノ版ニ就テ人々ノ名ヲ唱ヘ其唱ヘラルヽ人一々次第ニ下殿シテ葛所ニ向フ故ニ先ツ應渡座ノ後ヨリ近世名唱フル後ナレトイヘ旧例ニ從フテ一應渡座ト更下殿シテ葛所ニ向フ但シ左ニ注スカ如クナレハ渡座ヨリ下殿シテノ間ニ入御ノ後見ルヘキ折シ入御暴ワテ下殿スヘシ其踏舃ノ後ハ夜日ノ所ニ注スカ如シ

入御

近仗称唯

並ニ出御ノ所ヲ見テ知ヘシ今度此入御ノ刻ニ過諸ノ節會踏舃ノ後ヨリ其次第今度ノ次第ノ如ク入御ハ群卿下殿踏舃ノ後ニ記スカ如シ唯真手ノ豊明ノ後ニハ入御ハ群臣磬折起座前次近仗帰入次群臣下殿踏舃一揖退出ト記スカ如シ中古以前ハ其次第ニ記スカ如ク入御ハ群臣下殿ノ後ニヨリトミエタリ中古以来ハ必ヒモ五卿ノ降入ヲヤスシテヤ

入御セラル仍テ警蹕アリト江次第ニ見エタリ是天皇陵ニ久シクテチタセアカ故ニ先入御セラル、ナルヘシサレトモ入御ヲ以群臣下殿ノ前ニ改メテ次第セルニハ非ス故ニ次第ノ記スニ及ハス

御ノ後ニ記ストイヘトモ亦群卿ノ下殿ノ暴ルヲテタセアリ若群卿下殿シテタセアル故ニ躍アリ若群卿下殿ノ暴テハ躍スルニ及ハス然レハ真享ノ次第トス

此次第度ノ次第ト記スト雖モ前後旧レカラストイヘトモ真実ニ至リテハ異ナルヘカラス今度ノ儀此先ノ後イセタ辞ニ開ストイヘ𪜈蓋先入御セラレ其時群卿磬折シテ座ノ前ニ立チ近仗ノ躍ヲ称シ

暴リテ近仗ハ退入シ王卿ハ下殿シテ保昨ニ就ルナルヘシ辰巳両日ノ至基ノ儀モ此ニ同

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用

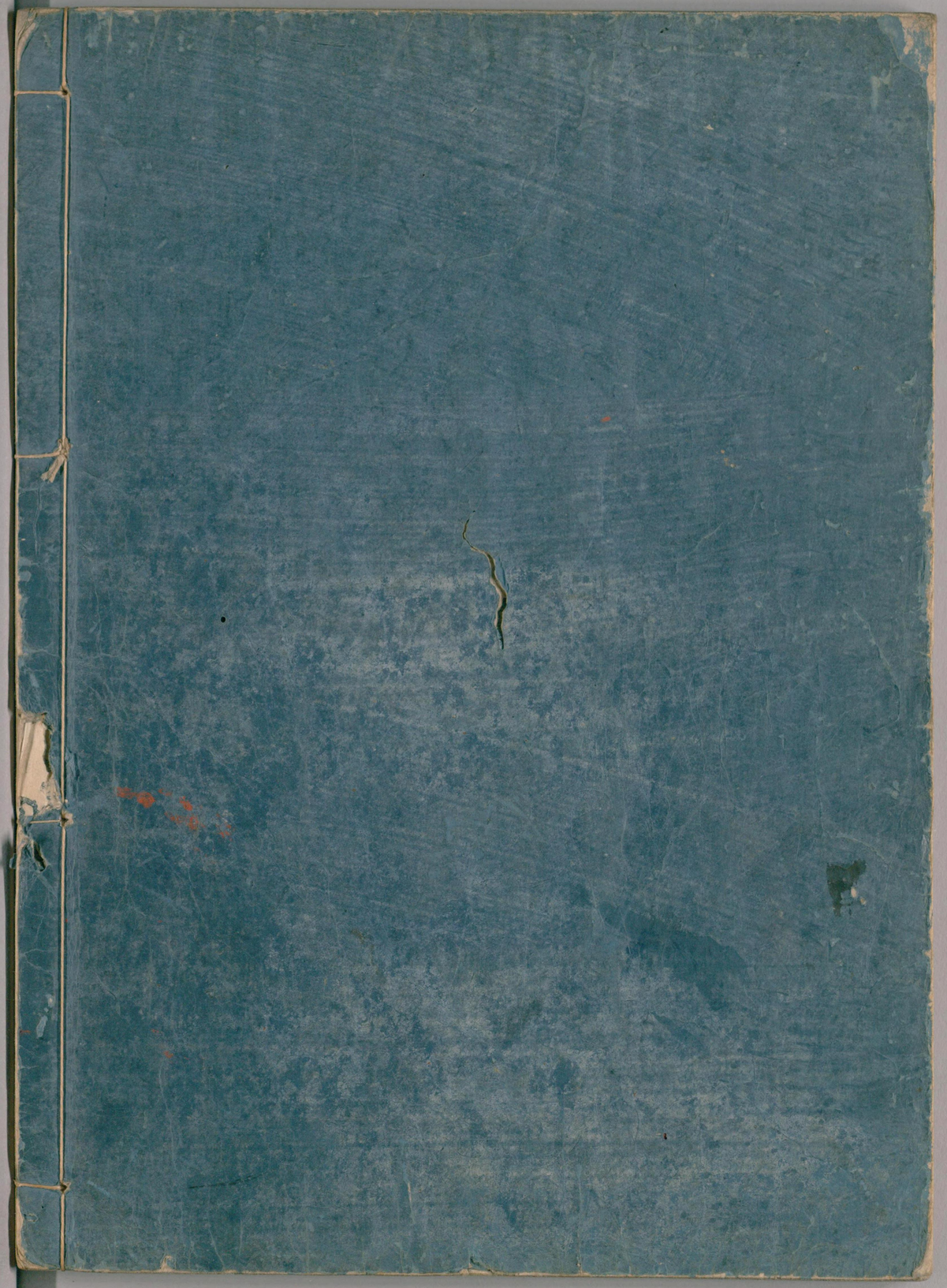
853
195

3493

卅一年六宮上義淳ノ薨

寛政十二申年八月

国立国会図書館　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195　ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『大嘗会儀式具釈 2巻』 請求記号 853-195

ガラス使用